

令和5年度独立行政法人国立美術館年度計画

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 美術振興の中心的拠点としての多彩な活動の展開

(1) 多様な鑑賞機会の提供

①-1 独立行政法人国立美術館（以下「国立美術館」という。）は、研究成果、利用者のニーズ等を踏まえ、国立美術館ならではの多様な美術作品の鑑賞機会を提供するため、魅力ある質の高い所蔵作品展・企画展等を実施する。所蔵作品展は、各館の特色を生かし、小企画展・テーマ展として行うものを含め積極的に開催する。企画展では、世界の美術の新たな動向を紹介する展覧会や我が国の作家や芸術的動向を海外に紹介し、国際的な美術動向に位置付ける展覧会、メディアアート等の先端的な展覧会、作家・作品の再発見・再評価、我が国に所在するコレクションの積極的活用を目指した展覧会を開催する。

映画については、保存・復元成果の活用と、国内外の同種機関や関連団体との積極的な連携を通して、映画人や時代、国やジャンル等様々な切り口による上映会・展覧会をバランスよく実施し、多様な鑑賞機会の提供を図る。

また、展覧会の開催に当たっては、実施目的、期待する成果、学術的意義を明確にするとともに新しい切り口や研究成果を活用した展示、調査研究、関連資料の充実、展示説明資料の工夫、批評の充実・翻訳等を含む展覧会カタログの充実等による魅力の創出を図るほか、入館者アンケート調査及び「非来館者調査」等を実施し、そのニーズや満足度を把握し、分析結果を展覧会事業等に反映させる。

その他各館のホームページをはじめ、インターネットを活用した展覧会事業等の広報により一層努める。

各館では以下の方針に基づき、別表1の展覧会等を開催する。

(東京国立近代美術館本館)

所蔵作品展では、特集展示による新たな視点の提供や、多言語による掲出解説文の充実に努め、約130年にわたる日本美術の流れを体系的に示す国内最大の展示としての使命を十全に果たす。主な特集展示として、「美術館の春まつり」、「修復の秘密」、「新収蔵&特別公開 | パウル・クレー《黄色の中の思考》」、「生誕100年 大辻清司（仮称）」等を開催する。また、国際化の中でアイデンティティを模索する日本の近代美術の歩みをわかりやすく紹介しながら、その流れの中に、特定の年代に焦点を絞った小企画を組み込む。この小企画によって、展示替え毎に明快な変化をつけていくことで、いつ来ても、何度来ても魅力的な展示構成を実現する。

企画展では、明治以降の重要文化財を一同に会し、それらの評価の変遷を辿ることを通して、日本の近代美術の歴史に新たな角度から光を当てる「東京国立近代美術館70周年記念展 重要文化財の秘密」、「未完の聖堂」と言われたサグラダ・ファミリアの完成が近づいていることをうけ、この大聖堂に焦点を絞って、ガウディの建築思想や制作方法を読み解いていく「ガウディとサグラダ・ファミリア展」、青森、東京、富山という地域との関わりを軸に、板画、倭画、油彩画といった様々な領域を横断しながら、時代特有の「メディア」を縦横無尽に駆け抜けた棟方志功の多岐にわたる活動を紹介し、その作家像を再考する「生誕120年棟方志功展 メイキング・オブ・ムナカタ」、日本の戦後写真における転換期となった1960年代末から70年代半ばにかけて、実作と理論の

両面において写真界に大きな足跡を残した写真家中平卓馬の活動全体をあとづける回顧展「中平卓馬展（仮称）」を開催する。

（国立工芸館）

所蔵作品展は本年度も全展示室を使用して開催する。夏季には水を表現した作品や水を入れる器など、水と工芸との関係性をテーマにしてさまざまな分野から作品を選び紹介する。また、「松田権六の仕事場」において、展覧会と連動したテーマを採用しつつ作家ゆかりの制作道具や関連資料を展示する。

企画展では、ポケモンと日本の現代工芸家20名とのコラボレーション展「ポケモン×工芸展－美とわざの大発見－」を開催する。すべて新作を依頼し、いろいろな素材や技法により作り出された作品を紹介する。続いて秋には第38回国民文化祭「いしかわ百万石文化祭2023」の会期にあわせて、皇室が守り伝えてきた名品を所蔵する三の丸尚蔵館のコレクションの中から、石川ゆかりの美術工芸品を紹介する展覧会「三の丸尚蔵館名品展（仮称）」を石川県立美術館と共同開催する。そして戦後の版画とグラフィックデザインを紹介する「印刷／版画／グラフィックデザインの断層 1957－1979」展を京都国立近代美術館と共同で開催、年度末には志野焼の人間国宝鈴木藏の卒寿を記念した展覧会を開催する。

（京都国立近代美術館）

所蔵作品展では、各ジャンルとも企画展と連動したテーマを積極的に採用しつつ、さまざまな特集展示を交えながら、年間4回の総展示替えによって幅広いコレクションを紹介する（途中展示替あり）。開館60周年記念プログラムや、関東大震災から100年に係る特集展示も予定している。また、「エデュケーショナル・スタディーズ04」として、文化庁支援事業の「感覚をひらく－新たな芸術鑑賞プログラム創造推進事業」と連動した展示を企画している。

企画展では、開館60周年を記念し、京都国立近代美術館が開館以降重点を置いてきた分野の展覧会・作品収集活動を振り返り、今日の視点でそれらを再検討することで、今後の指針を探ることを目的とした一連の展覧会を開催する。京都国立近代美術館の開館記念展は「現代日本陶芸の展望」と「現代絵画の動向」の二本立てであった。その後も、積極的に陶芸を含む「工芸」の意味を問う展覧会を開催し、シリーズ化された「現代美術の動向」展では、1960年代美術の先駆的な動きをいち早く紹介した。その活動を振り返り再検証するために、「走泥社再考 前衛陶芸の生まれた時代」展と「Re:スタートライン 1963-1970/2023 現代美術の動向展シリーズにみる美術館とアーティストの共感関係」展を開催する。また、京都国立近代美術館は京都に立脚する近代美術館として、明治以降の京都日本画の研究を継続的に行い、歴史に埋もれた多くの作家の再発見・紹介に尽力してきた。そのこれまでの成果に新たな知見を加えて、「甲斐莊楠音の全貌－絵画、演劇、映画を越境する個性」展及び「京都画壇の青春－栖鳳、松園につづく新世代たち」を開催する。京都国立近代美術館は開館時より、「工芸」を活動の柱のひとつに据えているが、日本国内のみならず、国外の動向にも関心を持ち、その紹介に努めてきた。今年度はその一環として、「リュイユーフインランドのテキスタイル：トゥオマス・ソパネン・コレクション」展を、4階コレクション・ギャラリーの一部を使って開催する。染織は京都の基幹産業であり、その隆盛は、伝統的な染織作品のみならず、ファイバーアートと呼ばれる新たな動向を推進する原動力となって、国際的に活躍する作家を数多く生みだした。しかし染織産業の衰退が危惧される今日、ファイバーアートとは何か、何でありうるのか、を改めて考え、将来の展望を探ることを目的として、「小林正和とその時代：ファイバーアート、その向こうへ」展を開催する。

(国立映画アーカイブ)

上映会では、長瀬記念ホール OZUにて、日本映画の輝かしい歴史を築き、惜しまれながら逝去した映画人の方々を追悼する企画「逝ける映画人を偲んで 2021-2022」を2期にわたって開催する。弁士の説明や生演奏を付けて無声映画を上映する企画「サイレントシネマ・デイズ2023」、映画スター・月丘夢路と映画監督・井上梅次という映画人夫妻の華やかな経歴を取り上げる展覧会との連動企画「月丘夢路 井上梅次 生誕100年祭（仮称）」、1967年から1990年代にかけてアメリカ議会図書館から返還された戦前の日本映画を回顧する企画「返還映画コレクション Part 1（仮称）」のほか、令和4年度に開始した、日本における女性映画人の歩みを歴史的に振り返る大規模な企画「日本の女性映画人」シリーズを「日本の女性映画人 Part 2（仮称）」として引き続き実施する。

小ホールでは、4月から、2023年に没後10年を迎える世界的巨匠・大島渚監督の足跡をたどる展覧会との連動企画「没後10年 映画監督 大島渚（仮称）」を開催し、日本のインディペンデント・アニメーション界を牽引する山村浩二の作品歴全体にわたる回顧上映「アニメーション作家 山村浩二」のほか、国立映画アーカイブ所蔵コレクションから厳選した作品を上映する企画「NFAJコレクション 2024冬」を実施する。

共催企画上映では、「EUフィルムデーズ2023」や「第45回ぴあフィルムフェスティバル」のほか、東京国際映画祭との共催で日本映画の名作を主に外国人観客に向けて紹介する「TOKYOクラシックス（仮称）」、イタリアのチネテカ・ディ・ボローニャとの共催（予定）で、イタリア映画史上の名作など同アーカイブ所蔵作品を中心とした復元作品を紹介する「蘇った名画たち チネマ・リトロバート映画祭（仮称）」を開催する。

展覧会では、スチル写真・ポスター・プレス資料等の所蔵コレクションを活用しつつ、特集展示「NFAJコレクションでみる 日本映画の歴史」を実施する。また、企画展として日本映画に革新をもたらした野心的な数々の名作を生んだ巨匠を顕彰する「没後10年 映画監督 大島渚（仮称）」、一世を風靡したスター女優と娯楽映画の名監督という夫妻の生涯をたどる「月丘夢路 井上梅次 生誕100年祭（仮称）」、国民的なグラフィックデザイナー、イラストレーターであり映画監督としても活躍した和田誠の映画関連の業績を紹介する「和田誠 映画の仕事（仮称）」を開催する。

(国立西洋美術館)

所蔵作品展では、松方コレクションを含む絵画及び彫刻作品の展示を通じて、中世から20世紀半ばまでの西洋美術の流れを体系的に鑑賞できる機会を提供するとともに、作品科学調査をはじめ、研究員の調査研究の成果を取り入れた特集展示も積極的に行う。

また、小企画展としては、「橋本コレクション展—指輪よりどりみどり」（仮称）等を開催する。

企画展では、まず「憧憬の地 ブルターニュ —モネ、ゴーガン、黒田清輝らが見た異郷」展において、ゴーガン作品を中心にブルターニュ地方と関わりの深い西洋・日本の絵画等を紹介する。「スペインのイメージ：版画を通じて写し伝わるすがた」展では、スペインに関わる版画制作の史的展開を17世紀初めから20世紀半ばまでの長いスパンで俯瞰する。「キュビズム展—美の革命 ピカソ、ブラックからドローネー、シャガールへ」では、パリのポンピドゥーセンター所蔵作品を中心に、キュビズムの全貌を紹介する。さらに「ここは未来のアーティストたちが眠る部屋となりえてきたか？

（仮）」では、国立西洋美術館が所蔵する作品と、現代アーティストたちの作品を組み合わせ展示し、国立西洋美術館の有する可能性を問う。

(国立国際美術館)

所蔵作品展では、企画展に合わせ2期に分けて展示を開催する。1期においては、令和4年度に収蔵した村上隆の「727」シリーズから代表作の一点《727 FATMAN LITTLE BOY》を展覧会の核とし「コレクション1 1980年代以後の現代美術（仮）」と題したコレクション展を企画。東京国立近代美術館が所蔵する村上隆作品も借用し、また国立国際美術館が所蔵する奈良美智や中原浩大らを出品し1980年代から現在までの美術を幅広く展覧する。また2期では近年の収蔵作品を中心に紹介する予定。

企画展では、家庭、祖国など現代社会において様々な意味を持つ「ホーム」をテーマに、アンドロ・ヴェクア、竹村京ら国内外で活躍する8名の現代美術作家によるグループ展「ホーム・スイート・ホーム」を開催する。「古代メキシコ マヤ、アステカ、テオティワカン」では、メキシコ国立人類学歴史研究所の協力により、3,000年以上にわたって繁栄した3つの古代文明を主軸に、その独自の世界観と造形美を紹介する。

国立国際美術館では国内外で製作された実験映画や個人映画、アニメーション、ドキュメンタリー作品などをとりあげ、上映機会の少ない稀少な映像を含む作品群の上映の場を維持し、「中之島映像劇場」として毎年度2回実施してきた。下半期は工事のために映画アーカイブとの共催による映像劇場は実施されないが、上半期には「現代美術と映像」をテーマに現代美術作家の田中功起の映像を取り上げ、現代美術と映像の諸問題を考察する。

(秋は工事理由により臨時休館予定)

(国立新美術館)

企画展では、令和4年度から引き続き「ルーヴル美術館展 愛を描く」を開催し、ルネサンスから19世紀半ばまでの西洋絵画における「愛」の表現の諸相を、同館の所蔵品によって紹介する。「テート美術館展 光 — ターナー、印象派から現代へ」では英国・テート美術館のコレクションより「光」をテーマに作品を厳選し、18世紀末から現代までの約200年間におよぶアーティストたちの独創的な創作の軌跡をたどる。「蔡國強：宇宙遊—〈原初火球〉から始まる」展では、国際的に大きな注目を集めてきた中国出身の現代美術家・蔡國強の活動を、最新作を含めて多角的に紹介する。「イヴ・サンローラン展」ではパリのイヴ・サンローラン美術館の全面協力を得て、20世紀のファッション界をけん引したイヴ・サンローランの約40年にわたる多彩な活動を展覧する。

「大巻伸嗣」展（仮称）では、天井高8mの企画展示室2Eの空間をダイナミックに使った大型のインスタレーションを展開する予定である。「遠距離現在」展では、パンデミックをきっかけに浮上した社会の様々な事象を、日本・アジア・欧米の約10名の作家の作品を通して現在進行形で考察する。「マティス 自由なフォルム」では、ニース市マティス美術館の所蔵作品を中心に、初期から晩年までの活動を包括的に検証する。

また、現代美術の普及・若手作家支援を目的として令和4年に開始したパブリックスペースを活用する小企画シリーズ「NACT View」の「02 築地のはら ねずみつけ」を令和4年度から引き続き開催し、次いで「03 渡辺篤」を開催する。

- ①-2 国立美術館における企画機能の強化を図るため、所蔵作品の長期貸与も視野に入れた相互貸出の推進に努めるとともに、6館共同企画展の成果を踏まえ、今後の各館連携について検討する。

①-3 国立西洋美術館においては印刷物、パネル、建築ツアー等に加え3Dデジタルコンテンツを用いて世界文化遺産の魅力を紹介するとともに、国立西洋美術館活用・公開方針検討委員会で世界遺産の「活用」と「公開」について、引き続き検討する。

②-1 国立美術館の所蔵作品を効果的に活用し、地方における鑑賞機会の充実及び美術の普及を図るとともに全国の公私立美術館等の活動の充実と作品活用の促進に資するため、国立美術館巡回展を以下のとおり実施する。

「令和5年度国立美術館巡回展 20世紀美術の冒険者たち——名作でたどる日本と西洋のアート」（仮称）

（担当館：東京国立近代美術館）

（ア）期間：令和5年7月22日（土）～9月18日（月・祝）（53日間）

会場：熊本県立美術館（熊本県熊本市）

（イ）期間：令和5年9月30日（土）～11月19日（日）（44日間）

会場：高松市美術館（香川県高松市）

②-2（国立アトリサーチセンター）

従来の国立美術館巡回展、国立美術館合同企画展を再編・見直しし、国立美術館と全国の公私立美術館等との連携による新しいかたちの展覧会事業として、以下の2つの公募を行う。

（1）「国立美術館 コレクション・ダイアログ」国立美術館のコレクションに開催館のコレクションも加えて構成した企画展を原則とする。令和7年度から実施。

（2）「国立美術館 コレクション・プラス」開催館のコレクション展における、テーマ性をもった小特集展示に、国立美術館の所蔵品1点ないし数点を加えて実施する。令和6年度から実施。

③ 公立文化施設等と連携協力して、所蔵映画フィルムによる映画鑑賞事業を実施する。

ア 優秀映画鑑賞推進事業

広く国民に優れた映画鑑賞の機会を提供し、あわせて国民の映画文化や映画芸術への関心を高め、映画フィルム保存の重要性についての理解を促進するため、文化庁の協力のもと、教育委員会、公共文化施設等との連携・協力による共催事業として、全国各地で映画の巡回上映を実施する。

プログラム：22プログラム88作品（1プログラム4作品）

日本映画史を彩る名匠たちの代表作やスターが活躍するヒット作、時代劇、青春映画等、それぞれのジャンルを代表する名作、時代を画した話題作等で構成し、同時に、地域の特色を持った構成により、会場が参加しやすいよう工夫をする。なお、令和5年度は東映株式会社及び東宝株式会社の協力により、デジタル上映の導入にむけた試行として、2プログラムをデジタル上映素材（DCP）でも提供する。

期間：令和5年7月20日（木）～令和6年3月3日（日）

会場：全国100会場（予定）

イ 巡回上映等

（ア）「こども映画館 スクリーンで見る日本アニメーション！」

期間：令和5年4月～令和6年3月

会場：地方会場複数（予定）

共催：一般社団法人コミュニティシネマセンター

（イ）「NFAJ 所蔵作品選集 MoMAK Films」（年4回）

期間：令和5年5月、8月、11月、令和6年2月（予定）

会場・共催：京都国立近代美術館

(ウ) 「蘇った名画たち チネマ・リトロバート映画祭（仮称）」

期間：令和6年2～3月（予定）

会場：(福岡会場)福岡市総合図書館

(京都会場)京都文化博物館

共催：チネテカ・ディ・ボローニャ及び各会場

＊中之島映像劇場（国立国際美術館との共催事業）は会場都合により令和5年度は休止。

(2) 美術創造活動の活性化の推進

① 国立新美術館は、美術団体等に公募展会場の提供等を行う。

ア 令和5年度に公募展等を開催する美術団体等に会場を提供する。

イ 令和7年度に施設を使用する美術団体等を決定する。

ウ 美術団体等が快適に施設を使用できる環境の充実に努めるとともに、美術団体等と連携して教育普及事業を行う。

② 「大巻伸嗣」展（仮称）では、天井高8mの企画展示室2Eの空間をダイナミックに使った大型のインスタレーションを展開する予定である。〔再掲〕

「蔡國強：宇宙遊一〈原初火球〉から始まる」展では、国際的に大きな注目を集めてきた中国出身の現代美術家・蔡國強の活動を、最新作を含めて多角的に紹介する。〔再掲〕

また、現代美術の普及・若手作家支援を目的として令和4年に開始したパブリックスペースを活用する小企画シリーズ「NACT View」の「02 築地のはら ねずみつけ」を令和4年度から引き続き開催し、次いで「03 渡辺篤」を開催する。〔再掲〕

③ 国立新美術館は、国際発信拠点として機能を充実する観点から必要な要素を整理するとともに、予約の在り方を含め、その運用の見直しの検討に着手する。

(3) 美術に関する情報の拠点としての機能向上

① 法人のホームページ及び各館等のホームページについては、内容の充実に努め、国立美術館の活動について積極的な情報発信に努める。

所蔵作品情報については、平成28年度に実施した平成18年度以降の新収蔵作品の著作権者の調査等に基づき、許諾を得たものについて国立美術館所蔵作品総合目録検索システムに掲載し、収録画像の増加に努めるとともに、新収蔵作品等について著作権者の調査を継続する。加えて、専門家のための情報発信として、歴史情報（来歴等）を含む所蔵作品情報の収集・整理に努め、専門家向けにも利用可能なレベルの情報をインターネット上で公開し、国内外の研究促進に貢献する。

また、文化庁文化遺産オンライン、ジャパンサーチとの連携を継続する。

このほか、国立美術館の事業成果を取りまとめた『国立美術館年報』を発行する。

(国立アトリサーチセンター)

ア 全国美術館収蔵品サーチ「SHŪZŌ」について、我が国における美術館のナショナルセンターとして全国の美術館と連携し、引き続き国内美術館収蔵作品・作家情報の集約・国際発信を主導して進める。

イ 我が国美術の国際的な評価に資するため、英訳文献等の国際発信について体制の確

立に取り組む。

ウ 文化庁より移管されたメディア芸術データベースの運営体制の構築に取り組む。

エ 前年度末に試験公開した国立美術館の公開情報資源（国立美術館所蔵作品総合目録検索システム、国立美術館各館の図書検索システム、国立西洋美術館所蔵作品データベース及び国立美術館アートコモンズ等）を一元的に検索・閲覧できるシステムについて、本公開に向けて機能向上を図る。

オ 国立美術館所蔵作品総合目録検索システムを通じた情報提供とそのための著作権調査等を継続する。

（東京国立近代美術館本館）

ア 所蔵作品や展覧会、講演会、教育普及事業等の情報を適時ホームページに多言語で掲載し、情報の充実を図る。また、YouTubeを含む複数のSNSを活用し、積極的に情報を発信する。

イ 館ニュース「現代の眼」を電子ジャーナルとしてホームページ上で公開する。

ウ 研究紀要28号（令和5年度刊行予定）の全文をホームページで公開する。

エ 「東京国立近代美術館リポジトリ」を通して、ホームページ上で刊行物等を広く公開する。

（国立工芸館）

ア SNSを活用し館の活動を積極的に発信し国立工芸館への来館を促進する。

イ 展覧会情報、講演会、教育普及などのイベント情報をホームページに多言語で掲載し、情報の充実を図る。

ウ 展覧会情報をスムーズにメディアに提供するためにホームページ上に導入した写真貸出システムを活用しさらなる広報力強化に努める。

エ 館ニュース「現代の眼」を電子ジャーナルとしてホームページ上で公開する。

（京都国立近代美術館）

ア 利用者のニーズの多様化に対応し、端末の環境変化にあった情報提供に努める。

イ 展覧会情報、講演会、教育普及などのイベント情報をホームページに掲載し、情報の充実を図る。また、フェイスブックに加え、インスタグラムやYouTubeを活用し、積極的に情報を発信する。

ウ コレクション・ギャラリーのテーマ展示に関する解説を多言語でホームページに掲載し、情報発信の充実に努める。

エ 過去の展覧会情報をアーカイブ化して、ホームページ上で公開する。

オ 自宅等でも楽しめるオンラインコンテンツをまとめた「おうちでMoMAK」のページをウェブサイト内に設け、情報を随時更新する。

（国立映画アーカイブ）

ア 定期刊行物及び上映作品に関する広報物の内容を充実させるとともに、ホームページ、メールマガジン、ツイッター、フェイスブック、インスタグラム及び公youtubeチャンネルを活用し、積極的に情報発信を行う。

イ 所蔵する記録映画・ニュース映画等の貴重な映像資源をオンラインでの視聴に供するための「国立映画アーカイブ・コレクションによる歴史的映像デジタルアーカイブ（仮称）」の構築を推進する。

ウ ホームページ上の「NFAJデジタル展示室」の充実や、所蔵技術資料のデジタル化に

取り組む。

エ ホームページ開設前の過去の上映会、展覧会に関する企画情報及び広報物をホームページ上に集積し、情報発信の充実に努める。

オ ホームページ上に映画製作専門家養成講座やアーカイブセミナーなど過去に開催した教育普及事業の採録テキストを公開し、オンラインサービスで学べるコンテンツの充実化を図る。

(国立西洋美術館)

ア 美術館の基盤であるコレクション情報の調査・収集・整理に努め、専門家のニーズにも適う質の高い情報をオンラインで国際発信し、国内外の研究進展に貢献する。

イ 「国立西洋美術館出版物リポジトリ」を通じて『国立西洋美術館研究紀要』及び『国立西洋美術館報』最新号等を公開し、美術に関する研究成果等についてオープンアクセス化を推進する。

ウ 広報の情報発信として、事業その他の活動状況を4か国語（日本語、英語、中国語、韓国語）のホームページやSNSを通じて積極的に発信する。

(国立国際美術館)

ア レジストラの管理の下、所蔵作品管理システムを活用して作品情報の整備と速やかなデータの公開を目指す。

イ 特にパフォーマンス等の現代美術作品のデータを適切に管理し、積極的に貸出などの活用をする。また、その調査研究や活用について先駆的な事例を蓄積し、国内外への情報発信を目指す。

ウ 歴史情報（来歴、展歴等）を含む所蔵作品の情報整備に努め、インターネットを通じて2か国語（日本語、英語）で公開する。

エ 所蔵作品、展覧会情報、講演会、教育普及事業等のイベント情報をホームページに掲載し、情報の充実を図る。さらに複数のSNSを活用し、積極的に情報を発信する。

オ ホームページについて、現在の展覧会情報だけでなく、過去の展覧会情報についても充実を図る。

カ 4か国語（日本語、英語、中国語、韓国語）の展覧会情報等をホームページ上で公開する。

(国立新美術館)

ア SNS（日本語、英語）を活用し、館の活動を積極的に発信するとともに、ホームページへの利用者の誘導を行う。令和4年度にリニューアルを実施したホームページを活用し、情報発信の充実と利用者の利便性向上を図る。

イ 閲覧に供することが難しい脆弱な所蔵資料のデジタル化を推進し、広く提供することで、所蔵資料の保存と利用者の閲覧の利便性向上の両立を図る。

- ② 美術史その他関連諸学に関する資料、国内外の美術館や展覧会に関する情報及び資料を収集し、各館の情報コーナー、アトライブラリー、資料閲覧室等において、情報サービスの提供を実施する。また、東京国立近代美術館アトライブラリーと国立新美術館アトライブラリーの在り方については利用者の利便性向上を図る視点からの見直しに着手する。

(国立アートリサーチセンター)

国立美術館各館図書室の活動を基礎としながら、日本のアートに関する国際的リサーチ・センター機能のあり方について検討し、独自のレファレンス・ツールの作成と公開に取り組む。

(東京国立近代美術館本館)

ア 本館アトライブラリにおいて近・現代美術関連資料を収集し、公開する活動を継続的に進める。

イ 美術図書館連絡会（ALC）への参加等、国内の美術図書館と連携する。

ウ 国立情報学研究所の目録所在情報サービス（NACSIS-CAT）を通して、展覧会カタログを中心とした美術資料に関する書誌情報を作成し、その流通に寄与する。

エ 図書館間相互利用サービスによる文献複写への対応を継続し、美術資料へのアクセス向上に努める。

オ 国内外の美術館・博物館・大学・研究機関等と行っている刊行物の寄贈交換事業を継続して実施する。

(国立工芸館)

ア 国立工芸館アトライブラリにおいて近・現代工芸及び美術関連資料を収集し、公開する活動を継続的に進める。

イ デジタル化作業を進め、閲覧に供する資料の充実を図る。

(京都国立近代美術館)

情報資料室において所蔵する図書及び美術資料の外部研究者等への公開を継続的に進める。

(国立映画アーカイブ)

ア 映画関連の図書資料を、購入や寄贈などを通じて積極的かつ継続的に収集し公開する。

イ 戦前期の映画雑誌など図書資料のデジタル閲覧システムの充実を図る。

(国立西洋美術館)

ア 西洋美術に関する情報及び資料を収集し、調査研究活動の基盤とする。電子リソースも積極的に取り入れてリモートアクセスへの対応を進め、研究資料センターを通じて外部利用者にも供する。

イ 美術に関する情報拠点としての機能を強化するとともに国際的な美術情報流通の向上に寄与するため、美術図書館連絡会（ALC）や「アート・ディスカバリー・グループ・カタログ」への参加等、国内外の美術図書館と連携する。

ウ 松方コレクション及び林忠正資料等を中心に研究資源の整備・公開を引き続き進める。

(国立国際美術館)

現代美術に関する資料や情報を積極的に収集し、調査研究活動の基盤とする。また、情報資料室において所蔵する図書及び美術資料の外部研究者等への公開を継続して実施する。

(国立新美術館)

ア 国内美術展カタログの海外への寄贈事業（Japan Art Catalogプロジェクト）を引き続き実施するとともに、国内有数の所蔵数を誇る展覧会カタログのコレクションおよび書誌作成の更なる充実に努め、日本の現代美術に関する資料のアーカイブ構築・公開を進める。

イ 「アートコモンズ」の収録展覧会情報のより一層の充実を図り、展覧会情報と所有する美術情報との連携を進める。また、「アートコモンズ」の収録展覧会情報を広く活用するために文化情報等を横断的に検索できる、国立国会図書館が実施する「ジャパンサーチ」への連携を継続的に実施する。

- ③ 国立アトリサーチセンターにおいて、現代美術やメディア芸術を含め日本のアートの国際的な価値の向上に資するための情報発信拠点として、日本のアートに関する文献の翻訳・発信、海外の専門家を招待したワークショップ等による国際的な人的ネットワークの構築及び現存作家の国際発信支援等について検討・実施する。

(4) 教育普及活動の充実

- ① 幅広い層の人々の美術館利用を促進するため、国立美術館の所蔵作品や展覧会に関する教育普及事業に取り組む。

学校教育に関しては、年齢や理解の程度に応じたきめ細かい事業を展開するとともに、美術教育に携わる教員に対する美術館を活用した鑑賞教育研修や各種教材の貸し出しを行い、学校や社会教育施設に対してこれら事業の広報に努める。

また、家族連れや若年層、高齢者、障害者など、美術館を利用し難いとされてきた層の人々に対しても、社会包摂の観点からアクセシビリティを向上させ、多様な学習機会の提供を試みる。

なお引き続き新型コロナウイルス感染症の状況に対応しつつ、感染防止策に配慮した教育普及活動を実施する。

(国立アトリサーチセンター)

幅広い層の人々を対象とした、所蔵作品や美術資料等の情報を活用したラーニング事業等の開発に向けて、センター内各グループや各館教育普及室、大学や企業と連携して調査研究を進める。

国内外の美術館のラーニング実践を情報収集し、美術館教育関係者への効果的な発信・共有の場を検討する。

(東京国立近代美術館本館)

国内外の幅広い層を対象に、所蔵作品を活用した教育普及活動、企画展に関連するプログラムを展開する。展示室で本館ガイドスタッフ（解説ボランティア）が対話鑑賞を進める「所蔵品ガイド」、企画展関連講演会をはじめとする対面のプログラムは、感染症対策に十分留意した上で実施する。並行して、Zoom（オンライン会議システム）を利用したガイドスタッフによる「オンライン対話鑑賞」の開催や、「キュレータートーク」、「アーティストトーク」等の動画のYouTube 配信など、オンラインを活用した教育普及活動も継続する。また、来館した小・中学校、高等学校等団体には、感染防止策に配慮したギャラリートーク、講堂でのガイダンス等を実施するほか、特別な支援を必要とする児童生徒の来館時には配慮するなど、発達段階に応じた鑑賞教育を持続させる。

小学生向けプログラム「こども美術館」、家族向けプログラム「おやこでトーク」につ

いては、対面での実施を検討する。

企業・ビジネスパーソン向けには、鑑賞ワークショップ等のプログラムを引き続き提供する。外国人来館者向けの英語による鑑賞・異文化交流プログラム「Let's Talk Art!」は、内容や開催方法を見直し、より適した形を探る。

ア 企画展に関する講演会等の実施（YouTube 等による動画配信を含む）。

イ 所蔵作品展に関するキュレータートーク、アーティストトーク、解説ボランティア（本館ガイドスタッフ）による所蔵品ガイド等の実施（YouTube 等による動画配信、Zoom を利用した「オンライン対話鑑賞」を含む）。

ウ 「春まつりトークラリー」などイベントに対応した鑑賞プログラムの実施（オンライン対応含む）。

エ 小学生を対象とした「こども美術館」、未就学児を含む家族を対象とした「おやこでトーク」の実施（オンライン対応含む）。

オ 外国人来館者向けの英語鑑賞プログラム「Let's Talk Art!」を一部継続しながら、成果の検証と見直しを実施。

カ ビジネスパーソン向け鑑賞プログラム等の実施（オンライン対応含む）。

キ 児童・生徒・学生へのスクール・プログラム（Zoom 等による遠隔授業を含む）や、「先生のための鑑賞日」「美術館活用講座」の実施（オンライン対応含む）。

ク 小・中学生向けの「こどもセルフガイド」、未就学児向けの「セルフガイド・プチ」及び「英語版セルフガイド・プチ」の会場配布並びに「デジタル版こどもセルフガイド」の電子配信。

（国立工芸館）

ア 展覧会ごとに講演会やアーティスト・トーク、ギャラリートーク等の実施又はオンラインコンテンツの配信

イ ガイドスタッフ等による「工芸トークオンライン」（日本語・英語）の実施

ウ 一般観覧者向けの鑑賞補助教材の配布

エ 児童を対象とするセルフガイド等の配布、またワークショップ等の実施又はオンラインでの配信

オ 2D及び3D鑑賞システムの内容充実

カ 石川県ほか近隣の小中学校等との協働による工芸鑑賞教育研究会の実施

キ 教員のための鑑賞日の実施

ク 国立工芸館ボランティアスタッフ（仮称）の募集・養成と活動の運営

（京都国立近代美術館）

幅広い層の人々への美術鑑賞・美術館での体験に対する関心を高めることを重点目標に置き、展覧会に関連した講演会や解説を開催する。また、美術館を活用した各種団体の自発的な学習・研究等を積極的に支援するとともに、美術鑑賞教育の核としての現場指導者の質の向上を目指す。さらに、障害者や若年層、家族連れをはじめとする利用者層にもアプローチしながら、美術館での体験の枠組みを広げる取組を進める。

ア 小・中・高等学校、特別支援学校及び大学の授業や課外活動との積極的な連携

イ 大学教員等による美術館を利用した研究会・プログラムに対する協力・支援

ウ 学校、各種団体からの要請による解説の実施

エ 企画展に関連した講演会やシンポジウム、ギャラリートークの実施（インスタグラムやYouTube 等での動画配信を含む。）

オ 京都市教育委員会等との共催による教員向けの鑑賞教育研修会の共同開催

カ 障害者など様々な人が美術館や美術作品を楽しめるユニバーサルなプログラムの実施

(国立映画アーカイブ)

映画鑑賞や解説を通して幅広い層の人々への映画及び映画保存への関心を高める事業を館内外で展開するとともに、様々な観客層に合わせた内容の教育普及プログラムを実施する。

ア 館外共催上映等

(ア) 一般社団法人コミュニティシネマセンターとの共催による巡回上映事業「こども映画館 スクリーンで見る日本アニメーション！」の実施と事業内でのワークショップの推進

(イ) 教育委員会、公共文化施設等との連携・協力による巡回上映事業「優秀映画鑑賞推進事業」を実施し、現在では希少な 35mm フィルム上映とスクリーンでの鑑賞体験を通して映画保存や映画文化についての普及を行う。また、令和 5 年度も令和 4 年度に引き続き映画会社の協力の下にデジタル上映を試行的（2 回目）に実施する。[再掲]

イ 館内開催イベント等

(ア) 研究員の解説や弁士の公演等も交えながら映画の多様性に触れる機会を提供する「こども映画館 2023 年の夏休み★（仮称）」の実施

(イ) ユネスコ「世界視聴覚遺産の日」（10 月 27 日）に関連した上映・講演会等を開催するなど、上映会や展覧会及び教育普及に関わる講演会及びセミナー等を開催する。

(ウ) 駐日スロバキア共和国大使館等との共催で、ヴィシエグラード・グループ各国の多様なアニメーションなど短篇作品の鑑賞機会を、各国文化センターの解説付きで提供する「V4 中央ヨーロッパ子ども映画祭」の実施

(エ) 相模原市及び独立行政法人宇宙航空研究開発機構との文化事業等協力協定に基づく上映会及び施設見学、並びに相模原市内の小・中学生を対象とした上映会等の実施

(オ) 上映会・展覧会におけるトークイベント等の実施

(カ) 国立映画アーカイブ特別施設見学制度を活用した映画映像、映画保存を学ぶ人たちへの学習機会の提供

(キ) 常設展の小・中学生向け鑑賞補助教材「セルフガイド」の作成と配布、またセルフガイド利用促進ビデオのオンライン配信と活用

(国立西洋美術館)

より多くの人に美術・美術館に親しんでもらう機会を創出し、各対象に応じた学びを提供するため、所蔵作品展と企画展の双方に関連した多様なプログラムを実施する。オンラインも適所に活用し、一般向けのプログラムを充実させるとともに、学校、家族、障害のある人等多様な対象に向けたプログラムを行い、社会的包摂を視野に入れた活動に努める。

ア 学校団体に向け、少人数のグループで対話をしながら所蔵作品を見る「スクール・ギャラリートーク」、美術館での仕事に関して児童・生徒からの質問に答える職場訪問、講堂にて常設展、企画展の見どころを伝えるオリエンテーション、鑑賞ガイド「アクティビティブック」の配布の実施

イ 来館者に向け、ボランティア・スタッフにより作品を紹介する「美術トーク」及び本館を巡りながら建築の見どころを伝える「建築ツアー」の実施

ウ 所蔵作品を活用したファミリープログラム「どうぶじゅつ」の実施

エ 小企画展や所蔵作品に関連した各種プログラムの実施（講演会、熟覧プログラム、ワークショップ等）

- オ 「美術館でクリスマス」（トーク、クリスマスキャロル・コンサート等）の実施
- カ 企画展に関連した講演会とスライドトーク等の実施
- キ 企画展に関連した「先生のための鑑賞プログラム」（解説及び無料観覧）の実施
- ク 障害のある人を対象とするプログラム（企画展特別鑑賞会、視覚障害者の方に向けた彫刻触察を含むツアー、聴障害の方への手話通訳付きツアー等）の実施

（国立国際美術館）

幅広い層の人々が美術館に親しみ、美術鑑賞の機会を身近に感じ、それぞれの人に応じた学びを得られるようなプログラムを実施する。

状況に応じ、対面とオンラインを併用し、所蔵作品展、企画展に合わせた講演、解説、アーティスト・トークを実施し、来館者が展覧会と接続できる機会を提供するとともに、乳幼児を育児中の保護者、幼児、障害者など、何らかの事情で美術館にアクセスすることが困難な人を対象として、美術、作品、美術館に興味関心を寄せられるプログラムを展開する。

そのほか、各校種・研究団体と連携することにより、幼稚園及び保育園、小・中・高等学校並びに特別支援学校とのより一層の結びつきを深め、鑑賞教育の充実を促進する。

- ア 企画展に関連した講演会・対談・アーティスト・トーク、ギャラリートーク等の実施
- イ 所蔵作品展に関連したギャラリートークの実施

- ウ 小学1年生～4年生を対象とした対話による鑑賞プログラム「こどもびじゅつあー」の実施

- エ 小学5年生～中学3年生を対象とした対話による鑑賞プログラム「びじゅつあー」の実施

- オ 未就学児とその家族を対象とした美術館体験プログラム「ちっちゃなこどもびじゅつあー ～絵本もいっしょに～」の実施

- カ 誰でも参加できる対話による鑑賞プログラム「だれでもびじゅつあー」の実施

- キ ファミリー・プログラム「びじゅつあーすぺしゃる」の実施

- ク 子供から大人までを対象にした現代美術作家等によるワークショップの実施

- ケ 小・中学生向け鑑賞補助教材「ジュニア・セルフガイド」の配布

- コ 鑑賞補助教材「アクティヴィティ・ブック」の配布

- サ 教職員向け美術館活用促進印刷物「スクール・プログラムガイド」の配布

- シ 「びじゅつかんまるごと発見シート」の配布

- ス 幼稚園及び保育園、小・中・高等学校並びに特別支援学校や大学からの要請に応じた、児童・生徒・学生へスクール・プログラム（オリエンテーション、ギャラリートーク、キャリア育成プログラムなど）の実施

- セ 特別支援学校における鑑賞教育促進

- ソ 幼稚園及び保育園、小・中・高等学校並びに特別支援学校の教職員対象美術館活用及び鑑賞プログラムの実施

- タ 美術館活用及び鑑賞教育に関する教員研修の実施

- チ 大阪府教育センター等との連携による研修会の実施

- ツ 誰もが鑑賞をはじめとする美術館のアクティヴィティを楽しめるユニバーサルプログラムの実施

（国立新美術館）

来館者の作品鑑賞の充実を目的として、展覧会ごとに講演会やアーティスト・トークを実施するほか、より多くの人々に美術に親しむ機会を提供するためのプログラムを幅広く

い層を対象に実施する。また、内容に応じて、オンラインを利用したプログラムも併せて提供する。

ア 展覧会等にあわせた講演会及びアーティスト・トーク、ギャラリートーク等を実施する。

イ 子供から大人まで幅広い層を対象にした作家等によるワークショップ等の実施

ウ 美術団体等との連携による講演会、鑑賞会及びギャラリートーク等の実施

エ 鑑賞ガイドの作成及び配布

オ 児童、生徒、学生を対象とした鑑賞ガイダンス、施設ガイダンスの実施

カ 美術館の建築とその機能・特徴に親しむ建築ツアーの開催

キ 美術館近接地である港区、渋谷区及び千代田区の地域貢献活動として、休館日学校招待デー「かようびじゅつかん」の開催

ク アニメーション制作の専門教育を行っている大学等が合同で開催する「インターカレッジ・アニメーション・フェスティバル（ICAF）2023」に特別協力する。また、日本アニメーション協会と連携して上映イベントやワークショップ等を開催する。そのほか、マンガ、アニメーション、ゲームに関連した事業の企画や協力を行う。

- ② ボランティアや支援団体の育成と相互協力による教育普及事業の充実を図る。また、企業や地域等との連携によるラーニングコンテンツを活用した事業の開発等を図る。

（国立アトリサーチセンター）

国内外の様々な機関と連携して、人々の健康や幸福に関わるアートの機能の活用や教育普及に係る取組の充実に向けて調査研究を進める。

JST 共創の場形成支援プログラムとして採択された「共生社会をつくるアートコミュニケーション共創拠点」事業を通じ、東京芸術大学ほか 37 機関とともに、アート・医療・福祉・テクノロジーを組み合わせた産官学プロジェクトに参画する。

（東京国立近代美術館本館）

ア ガイドスタッフ（解説ボランティア）による、所蔵作品展の所蔵品ガイドや、オンライン対話鑑賞を実施する。

イ ガイドスタッフによる、児童・生徒・学生の受入れ（スクール・プログラム）、ファミリープログラムの開催等、鑑賞教育の充実を図る。

ウ 英語ファシリテータによる「Let's Talk Art!」を一部継続しながら、成果の検証と見直しを実施する。

エ 有償解説スタッフによるビジネスパーソン向けプログラム等、有料プログラムを実施する。

オ ガイドスタッフ、英語ファシリテータ、有償解説スタッフのスキル維持のため必要に応じてフォローアップ研修を実施する。

（国立工芸館）

ア ガイドスタッフ（解説ボランティア）による日本語及び英語ガイドをオンラインにて実施する。

イ 国立工芸館ボランティアスタッフ（仮称）を募集・養成研修を行い、イベントや鑑賞プログラムの運営補助を実施する。

ウ ガイドスタッフ並びに国立工芸館ボランティアスタッフのスキル維持のため必要に応じてフォローアップ研修を実施する。

(京都国立近代美術館)

京都市との連携により、京都市教育委員会が主催する「京都市博物館ふれあいボランティア養成講座」修了者の中からボランティアを受け入れ、来館者へのアンケート調査等に携わってもらうことで、ボランティアの経験、知識の向上等に協力する。

(国立西洋美術館)

ア ボランティア・スタッフによる、小・中・高等学校の団体を対象とした所蔵作品展でのスクール・ギャラリートーク、ファミリープログラム、一般向け「美術トーク」及び「建築ツアー」を実施する。

イ 活動を希望する方により広く機会を提供するため、6期ボランティアを募集する。

ウ ボランティアの育成を目的として、プログラム遂行のためのスキルアップ及び広く美術に関する知識を学ぶための研修を実施する。

(国立国際美術館)

学生ボランティアを受け入れ、美術資料の整理、ワークショップ等の補助業務を通じて、美術館活動に参画する機会と実務経験を積む機会を提供する。

(国立新美術館)

ア 国立新美術館サポート・スタッフとして学生ボランティアを受け入れ、美術館における業務の補助を通じた実務経験の機会を提供する。

イ 教育普及事業等への企業協賛獲得に取り組む。

ウ 近隣関係施設と連携・協力し、「六本木アート・トライアングル」を構成して、展覧会スケジュールが入ったマップの配布や、美術の普及につながる活動を行う。

エ 協賛企業のボランティアと連携した教育プログラムの開発・実施。

③ 国立映画アーカイブにおいては、映画フィルム等の所蔵作品の活用を図った教育普及事業の充実を図る

ア 上映会・展覧会におけるトークイベント等の実施〔再掲〕

イ 研究員の解説や弁士の公演等も交えながら映画の多様性に触れる機会を提供する「こども映画館 2023 年の夏休み★（仮称）」の実施〔再掲〕

ウ 常設展の小・中学生向け鑑賞補助教材「セルフガイド」の作成と配布、またセルフガイド利用促進ビデオのオンライン配信と活用〔再掲〕

(5) 調査研究の実施と成果の反映・発信

国立美術館における美術作品の収集・展示・保管、教育普及、情報の収集・提供その他の美術館活動の推進等を図るため、別表2のとおり各館等において調査研究を計画的に実施し、その成果を美術館活動の充実及び美術の振興に生かす。実施に当たっては、国内外の博物館・美術館及び大学等の機関との連携を図る。また、募集情報等の共有を図り、科学研究費補助金等の研究助成金の申請や外部資金の獲得を促進する。

また、国立映画アーカイブにおいては、映画のデジタル保存・活用等に関する調査研究を別表2のとおり計画的に実施する。

さらに、館外の学術雑誌、学会等に掲載・発表するとともに、館の広報誌、研究紀要、図録を発行するなど、調査研究成果の多様な発信に努める。

(国立アートリサーチセンター)

- ア 美術作品の保存修復に関する海外の研究者を招へいた講演会・ワークショップを開催し、その成果をホームページ上に公開する。国立美術館が所蔵する作品の科学調査を推進し、その成果をホームページ上に公開する。
- イ 国立アートリサーチセンターのウェブサイト上に、「学びのリソースとしての美術館」「こどもと学校」「健康とウェルビーイング」「アクセシビリティ」についての調査研究成果、教材を公開する。
- ウ 聴覚障害者のための手話来館案内を、各館と協力して制作する。
- エ ウェルビーイングやアクセシビリティについて、海外の研究者を招へいた国際シンポジウムやオンラインフォーラムなどを通じての研究成果発信に努める。

(東京国立近代美術館)

- 展覧会に伴う図録・小冊子、研究紀要、東京国立近代美術館ニュース『現代の眼』（電子ジャーナル）及び『東京国立近代美術館活動報告』等の刊行物を発行する。

〈本館〉

- ア 小・中学生向け鑑賞ツール「セルフガイド」、未就学児向け鑑賞ツール「セルフガイド・プチ」及び「英語セルフガイド・プチ」を発行する。〔再掲〕
- イ 「デジタル版セルフガイド」を所蔵作品展にて配信する。〔再掲〕

〈国立工芸館〉

- ア 一般観覧者向けの鑑賞補助教材を配布する。〔再掲〕
- イ 児童を対象とするセルフガイド等を配布する。〔再掲〕
- ウ 2D及び3D鑑賞システムの内容充実を図る。〔再掲〕

(京都国立近代美術館)

- ア 展覧会に伴う図録、京都国立近代美術館ニュース『視る』、『京都国立近代美術館活動報告』及び研究論集『CROSS SECTIONS』等の刊行物を発行する。
- イ コレクション・ギャラリーでの展示替え毎に、展示の解説をホームページ上に公開する。
- ウ 京都国立近代美術館の日本画コレクション 1,100 点余りを紹介する新たな所蔵作品集を刊行する。その際、作品に関する最新の知見を反映し、修復後の作品については新規撮影を行う。
- エ 京都国立近代美術館の写真コレクション約 2,000 点を紹介する新たな所蔵作品集を刊行する。その際、作品の再調査に着手し、その成果の作品データベースへの即時反映に努める。

(国立映画アーカイブ)

- ア 上映会や展覧会に伴い『NFAJ ニューズレター』等の刊行物を発行する。
- イ 上映会や展覧会では、上映作品や出品リスト情報をホームページ上に公開する。
- ウ セミナーの再録を、ホームページ上に公開する。

(国立西洋美術館)

- ア 『国立西洋美術館研究紀要』、展覧会に伴う図録、『国立西洋美術館ニュース ZEPHYROS』、『国立西洋美術館報』等の刊行物を発行する。
- イ 企画展ごとに小・中学生向け解説パンフレット「ジュニア・パスポート」を発行する。

(国立国際美術館)

- ア 展覧会に伴う図録、『国立国際美術館ニュース』、『国立国際美術館活動報告』等の刊行物を発行する。
- イ 鑑賞補助教材「ジュニア・セルフガイド」、「アクティヴィティ・ブック」、「びじゅつかんまるごと発見シート」を配布する。〔再掲〕
- ウ 出版社と協働し、引き続き『現代美術スタディーズ』の刊行を進める。

(国立新美術館)

- ア 展覧会に伴う図録、鑑賞ガイド、『国立新美術館活動報告』、『国立新美術館研究紀要』等の刊行物を発行する。
- イ 研究紀要等の研究成果を、学術機関リポジトリデータベースにより公開する。
- ウ 連続講座の開催および記録映像の配信、刊行物の発行を行う。
- エ 刊行物等については、積極的にホームページに掲載し発信する。

(6) 快適な観覧環境等の提供

- ① 各館において、動線の改善や鑑賞しやすさ、理解のしやすさに配慮するための工夫を行う。
また、多言語化を含め、より良い鑑賞環境を提供するための様々な方途について検討する。
なお、アンケート調査等の結果を踏まえ、快適な観覧環境等の提供に努める。

(国立美術館全体)

- ア 所蔵作品展において、キャプション・解説パネル・出品リストや音声ガイド等の多言語化（日本語、英語、中国語、韓国語）を実施する。
- イ 企画展において、キャプション・解説パネル・出品リストや音声ガイド等の多言語化（日本語、英語、中国語、韓国語）を実施する。
- ウ 館内において無料 Wi-Fi を提供する。

(本部)

- ア 国外の主要メディアに各館を紹介するプレスリリースを配信するなど、外国人観光客の来館促進につながる広報を行う。
- イ 「非来館者調査」を実施し、結果を各館の来館者サービス充実等に活用する。
- ウ 一般向けの国立美術館の紹介パンフレット（日本語、英語、中国語、韓国語）を制作し、各館、観光案内所及び宿泊施設等で配布することで、法人の認知度の向上及び集客に努める。
- エ 法人概要（日本語、英語）を作成し、ホームページで公開する。

(東京国立近代美術館本館)

- ア 「美術館の春まつり」「MOMAT サマーフェス」など、歳時にあわせた全館イベントを企画・実施する。その際は地域と連携するなどし、館の魅力を上げるとともに来館者層の拡大を図る。
- イ 夏季期間、夜間開館周知のための広報施策を都内の美術館・博物館等と連携して実施する。
- ウ 来館者サービス充実に向け、電子アンケート（日本語、英語）を活用する。
- エ 年間の展覧会カレンダーをホームページ等で早期に公開し、周知を図る。
- オ 一般向けの館紹介パンフレット（日本語、英語）の配布、ホームページの充実などにより、館の認知度の向上及び集客に努める。
- カ 館概要（日本語、英語）を作成し、ホームページで公開する。
- キ 小・中学生向け鑑賞ツール「セルフガイド」、未就学児向け鑑賞ツール「セルフガイド・プチ」「英語版セルフガイド・プチ」を配布する。〔再掲〕
- ク 「デジタル版セルフガイド」を配信する。〔再掲〕
- ケ デジタルサイネージを活用し、館内案内の多言語化（日本語、英語、中国語、韓国語）を図る。
- コ デジタルサイネージを活用しインタラクティブな作品鑑賞サービスの充実を図り、所蔵作品の理解・普及に努める。
- サ キャプション・解説パネル・出品リスト等の視認性の向上について必要な改善を行う。
- シ 作品解説アプリを用いて展示解説情報（日本語、英語、中国語、韓国語）を提供する。
- ス 東京観光情報センター、東京シティアイ等と連携・協力し、外国人観光客及び東京への観光者に美術館の基本情報及び展覧会情報を提供する。

(国立工芸館)

- ア 館案内（日本語、英語）を配布する。
- イ 夏季の夜間開館時および関連イベント周知のための広報施策を実施し、来館者層の拡大を図る。
- ウ 作家、作品、章解説などを多言語（日本語、英語、中国語、韓国語）によるテキストと音声ガイドで提供する。
- エ 2D及び3D鑑賞システムの充実を図り、幅広い来館者層のニーズに応える情報提供を行う。
- オ 年間の展覧会案内（日本語、英語）を配布する。
- カ 親しみやすい館紹介カタログを制作し、国立工芸館および工芸の魅力を若年層へ遡及する
- キ 来館者サービス充実に向け、電子アンケート（日本語、英語）を活用する。

(京都国立近代美術館)

- ア 館フロアガイド（日本語、英語、独語、仏語、西語、伊語、中国語、韓国語）を配布する。
- イ 年間の展覧会案内（日本語、英語）を配布する。
- ウ 小・中学生に対してガイドブックを配布する。
- エ 京都国立博物館、京都市京セラ美術館、京都府京都文化博物館と共同して、年間展覧会案内を配布し、展覧会案内を利用したスタンプラリーを実施する。
- オ デジタルサイネージを活用し館内案内の多言語化（日本語、英語、中国語、韓国語）

- を図る。
- カ 企画展の主要な作品解説（日本語、英語）を HP 上に掲載するとともに QR コードを作品リスト等に掲載する。
- （国立映画アーカイブ）
- ア 上映会・展覧会の年間カレンダー（日本語、英語）を作成し、ホームページ上に掲載する。
- イ パンフレット（日本語、英語）を作成・配布し、ホームページ上に掲載する。
- ウ 長瀬記念ホール OZU での上映前に、開催中及び次回の上映会・展覧会についての広報と鑑賞マナーのアナウンスを映写する。
- エ 上映会の開催に際し、上映作品のリストを兼ねた広報物を作成・配布し、ホームページ上にも提示する。
- オ 正面入口両サイドに上映会・展覧会等の情報をデジタルサイネージで提示する。
- カ 常設展の小・中学生向け鑑賞補助教材「セルフガイド」をホームページ上に掲載する
[再掲]
- キ 外国人の鑑賞を促進するため、多言語による上映環境の整備に向けて検討を行う。
- ク 視覚・聴覚障害者のためのバリアフリー上映を実施する。

（国立西洋美術館）

- ア 国立西洋美術館ブリーフガイド（日本語、英語、中国語、韓国語）を配布する。
- イ 企画展において小・中学生向け解説「ジュニア・パスポート」を配布する。
- ウ 国立西洋美術館の概要、本館に見られるル・コルビュジエの建築的特徴、同時に世界遺産に登録された 7 か国 17 資産の建物等を紹介するパンフレット（日本語、英語、中国語、韓国語）を配布する。
- エ デジタルサイネージを活用し館内案内の多言語化（日本語、英語、中国語、韓国語）を図る。
- オ 上野文化の杜実行委員会と協力し、上野文化の杜の専用サイト上で国立西洋美術館についての情報を発信する。
- カ 視覚に障害のある方に「点字・触地図ガイドブック」を配布する。

（国立国際美術館）

- ア 小・中学生向け鑑賞補助教材「ジュニア・セルフガイド」（所蔵作品展作品鑑賞のためのワークシート）、「アクティヴィティ・ブック」（作品鑑賞のためのアクティヴィティを提案している冊子）、「びじゅつかんまるごと発見シート」（質問に答えながら、館内を探検し、美術館を発見していくシート）を配布する。[再掲]
- イ 展覧会スケジュール（日本語、英語、中国語、韓国語）を配布する。
- ウ デジタルサイネージを活用し館内案内の多言語化（日本語、英語、中国語、韓国語）を図る。

（国立新美術館）

- ア 館フロアガイド（日本語、英語、中国語、韓国語）を配布する。
- イ 展覧会カレンダー（日本語、英語）を作成・配布する。
- ウ 展覧会において鑑賞ガイドを作成・配布する。
- エ 文字を大きくし、見やすくした「大きな文字の利用案内」を配布する。
- オ 通訳機を導入し、海外からの来館者対応を円滑にする。

カ QRコードを用いて、展覧会場の解説の多言語化（日本語、英語、中国語、韓国語）情報を提供する。

- ② 入館料及び開館時間の弾力化等により、入館者サービスの向上を図るため、次のとおり実施する。

（国立美術館全体）

ア 若年層の鑑賞機会の拡大を図るため、高校生以下及び18歳未満の展覧会観覧料無料化を実施する。また、大学等を対象とする会員制度「キャンパスメンバーズ」の学生向けウェブサイトの充実や普及広報等に努め、利用者増加及び加入校増加を目指す。

イ 65歳以上の来館者について所蔵作品展の無料化を実施する。

ウ 所蔵作品展及び企画展において、原則金曜日及び土曜日の開館時間を午後8時まで延長する。

エ 展覧会の混雑状況等を考慮し、開館日・開館時間等について柔軟な対応を行う。

オ 「国際博物館の日」を記念して、展覧会の実施形態に応じ観覧料の無料化や割引を実施する。

カ 東京国立近代美術館、京都国立近代美術館、国立映画アーカイブ、国立西洋美術館及び国立国際美術館は日本私立学校振興・共済事業団と提携し、学生証等の提示による所蔵作品展の優待割引を実施する。

キ 東京国立近代美術館本館、国立映画アーカイブ及び国立西洋美術館は東京都が実施する外国人旅行者への観光事業「東京トラベルガイド」に参加し、外国人旅行者に対して所蔵作品展及び国立映画アーカイブの展覧会の観覧料の割引を実施する。

ク 東京国立近代美術館本館、国立映画アーカイブ、国立西洋美術館及び国立新美術館は、共通入館券事業「ぐるっとパス2023」に参加し、観覧料の割引を実施する。

ケ 京都国立近代美術館及び国立国際美術館は、共通入館券事業「ミュージアムぐるっとパス・関西2023」に参加し、観覧料の割引を実施する。

コ 東京国立近代美術館本館、国立映画アーカイブ及び国立西洋美術館は東京都が実施する青少年育成事業「家族ふれあいの日」に参加し、所蔵作品展及び国立映画アーカイブの展覧会の観覧料の割引又は無料化を実施する。

サ 東京国立近代美術館、京都国立近代美術館及び、国立西洋美術館では所蔵作品展チケット及び企画展チケットの、国立国際美術館では所蔵作品展チケットの、国立新美術館では企画展チケットのオンライン販売を実施する。

シ 東京国立近代美術館及び国立国際美術館では、賛助会員に対して、会員証提示による観覧料の割引や、ミュージアムショップでの割引等の来館者サービスを実施する。

ス 京都国立近代美術館及び国立国際美術館では、企画展及び所蔵作品展を観覧できる年間パスポートの販売促進に努める。

（東京国立近代美術館本館）

ア 所蔵作品展を観覧できるパスポート観覧券の販売促進に努める。

イ 千代田区、東京メトロ、日本自動車連盟（JAF）、学士会等と提携し、会員証等の提示による優待割引を実施、当該広報誌による展覧会広報とともに観覧料の低廉化を行う。

ウ クレジットカード、電子マネー（Suica及びPASMO等）及びQRコード決済サービス（訪日外国人向け）による観覧券の窓口販売を行う。

エ 友の会の会員に対して、会員証提示による観覧料の割引等の来館者サービスを実施する。

(国立工芸館)

- ア クレジットカード及び電子マネーによる観覧券の窓口販売を行う。
- イ 石川県・金沢市が運営する近隣美術館との観覧料の相互割引を行う。
- ウ 石川県が推進する「加賀百万石回遊ルート SAMURAI パスポート」に参加し、当該広報物による展覧会広報とともに割引による観覧料の低廉化を行う。
- エ 石川県内の高等教育機関が参加する学パス（学生のまちパスポート）に参加し、新入生の所蔵作品展観覧料の無料化を実施する。
- オ 石川県が実施する「いしかわ文化の日」に参加し、所蔵作品展観覧料の無料化を実施する。
- カ 石川県が企画検討している「電子スマートパス」への参加検討をする。
- キ 友の会の会員に対して、会員証提示による観覧料の割引等の来館者サービスを実施する。

(京都国立近代美術館)

- ア クレジットカードによる観覧券の窓口販売を行う。
- イ 株式会社京阪カード、株式会社阪急阪神カード等と提携し、カード提示による優待割引を実施し、同社の広報誌による展覧会広報を行うとともに、観覧料の低廉化を図る。
- ウ 京都国立博物館、京都市京セラ美術館、京都府京都文化博物館との観覧料の相互割引を実施する。
- エ 関西広域連合・関西観光本部・関西元気文化圏推進協議会が共同実施する「関西文化の日」に参加し、所蔵作品展観覧料の無料化を実施する。

(国立映画アーカイブ)

- ア 長瀬記念ホール OZU と小ホールの上映時間の重複を極力避けた柔軟なタイムテーブルの編成を、1日3回上映も含めて検討し、来館者の鑑賞機会の増加に努める。
- イ 上映会鑑賞者の利便性向上と、新型コロナウイルス感染症予防策としてオンラインによる前売指定席券及び窓口での当日券を販売する。新型コロナウイルス感染症予防対策については、全国興行生活衛生同業組合連合会等のガイドラインを遵守する。
- ウ 上映会の鑑賞者に対し、当日の展覧会観覧料の割引を行う。
- エ 展覧会において、電子マネー（Suica 及び PASMO）による観覧券の窓口販売を行う。

(国立西洋美術館)

- ア 常設展のリピーターに向けた観覧料低減策を検討する。
- イ クレジットカード、電子マネー（Suica 及び PASMO 等）による観覧券の窓口販売を行う。
- ウ 「国際博物館の日」にあわせて常設展観覧料を無料化すると共に上野地区の文化施設・商業施設と連携した広報を実施する。

(国立国際美術館)

- ア クレジットカード及び QR コード決済サービス（訪日外国人向け）による観覧券の窓口販売を行う。

イ 「大阪周遊パス 2023」、大阪市高速電気軌道株式会社（大阪メトロ）「エンジョイエコカード」等に参加し、観覧料の低廉化を図る。

ウ 近隣のホテル等と提携し、展覧会広報を行うとともに、観覧料の低廉化を図る。

エ 京阪カード会社、阪急阪神カード会社等と提携し、カード提示による割引を実施し、同社の広報誌による展覧会広報を行うとともに、観覧料の低廉化を図る。

（国立新美術館）

ア 「六本木アート・トライアングル」を構成する近隣の美術館と観覧料の相互割引を行う。

イ 美術団体等と協議の上、企画展及び公募展の観覧料の相互割引の実施を推進する。

ウ 同時期に開催する企画展の相互割引を実施する。

エ 共催者と協議の上、共催展の高校生無料観覧日を設定する。

オ クレジットカード、電子マネー（Suica 及び PASM0 等）による観覧券の窓口販売を行う。

カ 小学生以下の子供を対象とした託児サービスを通年で実施する。

③ 利用者のニーズを踏まえ、ミュージアムショップやレストラン等の充実を図る。

ア（東京国立近代美術館本館）

レストランと連携し、展覧会に合わせたコラボレーションメニューを提供するなど、来館者サービスの向上を図る。ミュージアムショップでは、オリジナルグッズを企画販売する。

イ（国立工芸館）

ミュージアムショップの販売活動を通じて「日本のものづくり」の魅力を国内外に発信することを目指し、管理・研究部門協働によって各地の工芸やデザインの優品を選び、商品解説や制作者紹介の充実にも努める。また、北陸地域の企業との連携によるオリジナルグッズを作成して販売する。さらに、展覧会に合わせたグッズを収集して販売し、利用者の関心を深める視点をショップからも発信する。

ウ（京都国立近代美術館）

カフェと連携、協力し、展覧会に合わせたテーマランチやテーマデザートを提供を行う。また、ミュージアムショップでは、新しいオリジナルグッズを製作し、展覧会に合わせた関連書籍やグッズをより充実させる。

エ（国立映画アーカイブ）

1 階ロビーにおいて NFAJ ニュースレター及び展覧会図録等を販売する。

オ（国立西洋美術館）

レストランにおいて展覧会に関連したメニューの提供等を推進し、やホームページや SNS 等で広報する。また、来館者サービスの向上を図るため、ミュージアムショップにふさわしいオリジナルグッズの開発、販売方法等を引き続き検討するとともに、オンラインショップの充実に努める。

カ（国立国際美術館）

ミュージアムショップと連携・協力してホームページに掲載されている商品情報等を充実させる。

キ（国立新美術館）

ミュージアムショップ内のギャラリーの展示に対する助言を行う。また、レストランと協力し、展覧会に関連した特別メニューの提供など、利用者へのサービス向上を図る。

2 我が国の近・現代美術及び海外の美術を体系的・通史的に提示し得るナショナルコレクションの形成・活用・継承

(1) 作品の収集

①-1 「独立行政法人国立美術館 作品収集方針」及び「独立行政法人国立美術館作品収集方針に基づく現代の美術作品の同時代収集の推進方針」に基づき、各館の収集方針に沿って、体系的・通史的にバランスのとれた所蔵作品の蓄積を図る。作品の収集に当たっては、その美術史的価値や意義等についての外部有識者の意見等を踏まえ、適切な購入を図る。また、収集活動を適時適切に行うために、美術作品の動向に関する情報の入手と機動性の向上に努めるとともに、ナショナルコレクションにふさわしい国内現存作家の作品をはじめ、現代の美術の動向を示す作品の同時代収集を一層推進するために法人内において研究会を定期的開催する。あわせて、各館が購入した美術作品に関する情報のホームページ公開を推進する。また、法人全体としての収蔵品状況を精査し、各館等の連携のもと、法人内他館への長期貸与等による積極的活用を進める。

(東京国立近代美術館本館)

19世紀末から今日に至る日本の近現代美術の流れを、国際的な関連を交えつつ通史的・体系的に示すために、その十全な展観に必要な不可欠な歴史的価値を有する作品・資料の収集に努める。またジェンダーバランスや地域性といった同時代的に重要な視点を常に踏まえ、将来的にその時代を象徴しうるような先駆的作品の確保に努める。

ア 1970年代以降の日本と海外の作品の収集

イ 日本の美術に影響を与えた海外作家の作品の収集

ウ 1900～1940年代の日本画作品の収集

(国立工芸館)

ア 近現代の日本の工芸作品及びデザイン作品の体系的・通史的概観を可能とし、かつ世界との関係を示すため必要な時代や国・地域の作品の充実を図る。

イ 性別・年齢の偏りを是正するよう配慮しつつ時代精神を映し出す優品を積極的に収集するよう努める。

ウ 日本工芸の近代化を示す作品の補充と、個々の表現を模索し多様な展開を見せる、戦後から現代に至る重要な作品の収集を中心とする。

(京都国立近代美術館)

ア 近現代の工芸全般、日本画、油彩画、版画、彫刻、写真など多様なジャンルの作品資料を収集し、将来における横断的美術史研究と総合的展観に資する体系的コレクションの形成に努める。

イ その際、優れた女性作家の作品を積極的に収集し、美術館活動におけるジェンダーバランスの是正を目指す。

ウ また、美術における京都を含む西日本の歴史的文化的重要性に鑑み、その地域性に立脚した作品や、世界の美術との影響関係の検証に不可欠な作品の収集に努める。

(国立西洋美術館)

- ア 中世から 20 世紀前半の西洋美術の流れの体系的・通史的概観を可能とするのに必要不可欠な時代や地域の作品の充実を図り、女性作家の作品も積極的に収集する。
- イ 松方旧蔵品の調査研究の成果に基づきつつ収集する。
- ウ ヨーロッパ版画史を通覧できるよう、多様な様式や主題の作品の系統的収集を行う。

(国立国際美術館)

日本美術の発展と世界の美術との関連を明らかにするため、国際的な交流が極めて盛んになった 1945 年以降の国内外の現代美術作品の収集を次の点について留意しながら積極的に行う。

- ア 国内外の同時代性の高い先端的な美術作品の収集
- イ ジェンダー・バランスの是正や非欧米地域の動向、国内の地域バランスに配慮した作品収集
- ウ 今後の美術史に寄与する現代美術作品の体系的な収集

①-2 寄贈・寄託作品の受入れを推進するとともに、所蔵作品展等における積極的な活用を図る。

①-3 法人本部が管理する美術作品購入費については、緊急を要する美術作品や通常予算では購入できない金額の美術作品及び国内外の現代作家の同時代購入に充てる。購入作品の選定に当たっては国立美術館としての役割を踏まえ法人全体のコレクション形成という観点から検討・調整する。
なお、作品収集に関しては、学芸課長会議等で情報交換や連絡調整を行う。

(2) 所蔵作品の保管・管理

保管施設の狭隘・老朽化への対応として、外部倉庫の活用、関係機関等との協議、既存の収蔵庫等保管施設の改修、額縁及び作品の整理による保管スペースの確保等を進め、保管環境の改善を行う。

また、平成 31 年 3 月に策定した「収蔵庫等保管施設の狭隘・老朽化対応に係る方針」に基づき、ナショナルセンターとして担う役割にふさわしい機能を有する新たな収蔵施設の設置に向けた調査及び検討を進める。

国立工芸館では、狭隘・老朽化のため以前より外部倉庫（東京）に保管を委託していた作品およびその後新たに収蔵した工芸作品の保管のため、沢市内の外部倉庫の活用を目指し検討を進める。

(3) 所蔵作品等の修理、修復

所蔵作品等の保存状況について、各館の連携・調整を行い、特に緊急に処置を必要とする作品について重点的に修理・修復を行う。

ア (国立アトリサーチセンター)

美術作品の保存修復に関する海外の研究者を招へいした講演会・ワークショップを開催し、その成果をホームページ上で公開する。国立美術館が所蔵する作品の科学調査を推進し、その成果をホームページ上に公開する。〔再掲〕

国立美術館各館の保存修復に関する情報の共有と連携を推進する。

イ（東京国立近代美術館本館）

作品貸与時の対応も含め、保存科学と修復に関する外部の専門家との定常的な連携を進める。特に、近年新たに収蔵した作品で修復が必要なものや、作品の安全性・鑑賞性を高める額装の改変などを中心的に進める。

ウ（国立工芸館）

展示や貸出等の活用頻度の高い工芸作品の現状保存修復を引き続き行う。また、ポスターの作品の安全性・鑑賞性を高める額装の改変や保存用の収納箱の改変などを継続して行う。

エ（京都国立近代美術館）

寄贈により収集したものの、作品保護の観点から展示に活用できていない美術作品の保存修復処置を優先的に行う。特に、経年劣化による影響の大きい日本画を中心に進め、京都国立近代美術館での展示のみならず、作品貸与の依頼にも応えられるようにする。

オ（国立西洋美術館）

展示や貸出の活用機会の多少にかかわらず、絵画作品、版画・素描作品等の保存修復処置を行い、展示できる作品を増やす。近年収蔵したコレクションについても、整理・調査及び保存修復作業を継続して実施し、速やかに展示活用できる状態にすることに努める。保存修復室と保存科学室で作品の科学調査を進め、作品の制作技術や材料についての調査研究にも努める。

カ（国立国際美術館）

展示・貸出予定のある作品、新収蔵作品を優先的に、作品の状態を確認し、必要な修復等の処置を施す。特に、現代美術に特有の修理・修復の課題（新しい素材や映像の取扱い）に積極的に取り組み、適切な処置に努める。

キ（国立新美術館）

保存状態が悪く、そのままでは利用が難しい所蔵資料について、デジタル画像作成を含めた保存修復措置を行う。

（４）所蔵作品の貸与

所蔵作品について、各館においてその保存状況や展示計画を勘案しつつ、国内外の美術館・博物館その他これに類する施設に対し、貸与等を積極的に実施する。

3 我が国における美術館のナショナルセンターとして美術館活動全体の活性化に寄与

（１）国内外の美術館等との連携・協力等

- ① 各館において国内外の研究者を招へいし、展覧会の開催等に合わせ各種講演会・セミナー・シンポジウムを開催する。

ア（東京国立近代美術館）

「東京国立近代美術館70周年記念展 重要文化財の秘密」、「ガウディとサグラダ・ファミリア展」、「生誕120年棟方志功展 メイキング・オブ・ムナカタ」、「中平卓馬展（仮）」に際し、国内外の研究者やアーティストを招へいして、シンポジウムや講演会を開催する。

イ（京都国立近代美術館）

「小林正和とその時代：ファイバーアート、その向こうへ」展に際して、出品作家に加えて、国際的なファイバーアートの動向に詳しい国内外の専門家を招聘し、座談会形式の連続講演会を開催する。

ウ（国立西洋美術館）

「憧憬の地 ブルターニュ ―モネ、ゴーガン、黒田清輝らが見た異郷」展、「スペインのイメージ：版画を通じて写し伝わるすがた」展、「キュビズム展-美の革命 ピカソ、ブラックからドローネー、シャガールへ」の開催に際し、国内外の研究者を招へいした講演会等を開催する。

エ（国立国際美術館）

「ホーム・スイート・ホーム」、「古代メキシコ ―マヤ、アステカ、テオティワカン」に際し、研究者を招へいし、講演会を開催する。

オ（国立新美術館）

「ルーヴル美術館展 愛を描く」展、「テート美術館展 光 ― ターナー、印象派から現代へ」展、「イヴ・サンローラン展」の開催に際し、国外の研究者を招へいした講演会等を行うほか、「遠距離現在」（仮称）展では内外のアーティストや専門家を招き、トークや座談会等を実地する。

② 展覧会等の紹介や企画に関連し、海外の美術館との連携・協力を図る。

ア（京都国立近代美術館）

将来的な関係構築を視野に入れ、国外美術館からの作品借用依頼に積極的に対応することとし、パウル・クレー・センター（スイス、ベルン）で開催される「Hanna Höch: Assemble World（ハンナ・ヘーヒ：世界を組み立てる）」展に、これまで展覧会に出品されたことのない貴重な作品《絵本》ほか、コラージュ作品3点の計4点を貸与する。また、2023年末からオーストリア応用芸術博物館（ウィーン）で開催される「上野リチ展」にも相当数の所蔵作品を貸与予定である。

イ（国立西洋美術館）

パリのポンピドゥーセンターとの共催により、「キュビズム展-美の革命 ピカソ、ブラックからドローネー、シャガールへ」を開催する。ポンピドゥーセンターからは約130点の作品を借用予定。また、アムステルダム国立美術館に油彩画1点、キャンベラのオーストラリア国立美術館およびヒューストン美術館に油彩画2点を貸与する。

ウ（国立国際美術館）

継続的な関係構築を目標とし、韓国国立現代美術館と連携し将来の共同開催展に向けての調査研究、相互のコレクション調査研究、セミナーなど両館の美術館活動に立脚した事業を展開する。

③ 全国の美術館等の運営に対する援助、助言を適時行うとともに、地方巡回展の開催、企画展の共同主催やそれに伴う共同研究等を通じて、関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等に取り組む。

国立新美術館では、熊本市現代美術館との共同企画により「遠距離現在」（仮称）展を開催する。

④ 国立アトリサーチセンターにおいて、中期計画に定める役割・任務に基づき、各館をはじめ国内外の関係者と連携・協力しつつ、各種の事業を総合的に行うとともに広く周知を図り、アートの専門性の深化と普及拡大に取り組む。

ア 美術館コレクションの活用促進

・従来の国立美術館巡回展、国立美術館合同企画展を再編・見直しし、国立美術館と全

国の公私立美術館等との連携による新しいかたちの展覧会事業として、以下の2つの公募を行う。

- (1)「国立美術館 コレクション・ダイアログ」国立美術館のコレクションに開催館のコレクションも加えて構成した企画展を原則とする。令和7年度から実施。[再掲]
 - (2)「国立美術館 コレクション・プラス」開催館のコレクション展における、テーマ性をもった小特集展示に、国立美術館の所蔵品1点ないし数点を加えて実施する。令和6年度から実施。[再掲]
- ・美術作品の保存修復に関する海外の研究者を招へいた講演会・ワークショップを開催し、その成果をホームページ上で公開する。国立美術館が所蔵する作品の科学調査を推進し、その成果をホームページ上に公開する。国立美術館各館の保存修復に関する情報の共有と連携を推進する。[再掲]

イ 情報資源の集約・発信

- ・全国美術館収蔵品サーチ「SHŪZŌ」について、わが国における美術館のナショナルセンターとして全国の美術館と連携し、引き続き国内美術館収蔵作品・作家情報の集約・国際発信を主導して進める。[再掲]
- ・我が国美術の国際的な評価に資するため、英訳文献等の国際発信について体制の確立に取り組む。[再掲]
- ・文化庁より移管されたメディア芸術データベースの運営体制の構築に取り組む。[再掲]
- ・前年度末に試験公開した国立美術館の公開情報資源（国立美術館所蔵作品総合目録検索システム、国立美術館各館の図書検索システム、国立西洋美術館所蔵作品データベース及び国立美術館アートコモンズ等）を一元的に検索・閲覧できるシステムについて、本公開に向けて機能向上を図る。[再掲]
- ・国立美術館所蔵作品総合目録検索システムを通じた情報提供とそのための著作権調査等を継続する。[再掲]
- ・国立美術館各館図書室の活動を基礎としながら、日本のアートに関する国際的リサーチ・センター機能のあり方について検討し、独自のレファレンス・ツールの作成と公開に取り組む。[再掲]

ウ 海外への発信・国際ネットワーク

国立アトリサーチセンターにおいて、現代美術やメディア芸術を含め日本のアートの国際的な価値の向上に資するための情報発信拠点として、日本のアートに関する文献の翻訳・発信、海外の専門家を招待したワークショップ等による国際的な人的ネットワークの構築及び現存作家の国際発信支援等について検討・実施する。[再掲]

エ ラーニングの充実

- ・幅広い層の人々を対象とした、所蔵作品や美術資料等の情報を活用したラーニング事業等の開発に向けて、センター内各グループや各館教育普及室、大学や企業と連携して調査研究を進める。国内外の美術館のラーニング実践を情報収集し、美術館教育関係者への効果的な発信・共有の場を検討する。[再掲]
 - ・国内外の様々な機関と連携して、人々の健康や幸福に関わるアートの機能の活用や教育普及に係る取組の充実に向けて調査研究を進める。
- JST共創の場形成支援プログラムとして採択された「共生社会をつくるアートコミュニケーション共創拠点」事業を通じ、東京芸術大学ほか37機関とともに、アート・医療・福祉・テクノロジーを組み合わせた産官学プロジェクトに参画する。[再掲]

- ・国立アートリサーチセンターのウェブサイト上に、「学びのリソースとしての美術館」「こどもと学校」「健康とウェルビーイング」「アクセシビリティ」についての調査研究成果、教材を公開する。[再掲]
- ・聴覚障害者のための手話来館案内を、各館と協力して制作する。[再掲]
- ・ウェルビーイングやアクセシビリティについて、海外の研究者を招へいた国際シンポジウムやオンラインフォーラムなどを通じての研究成果発信に努める。[再掲]

(2) ナショナルセンターとしての人材育成

① すべての人々のための美術教育・参加促進の一翼を担うナショナルセンターとして、次の事業を行う。

- ア 小・中学校の教員や学芸員が、学校や美術館で活用できる鑑賞教育用教材の普及を図る。
- イ 各地域の学校と美術館の関係の活性化を図るとともに、子供たちに対する鑑賞教育の充実に資するため、各地域の鑑賞教育や教育普及事業に携わる小・中・高等学校、特別支援学校等の教員と学芸員、指導主事が、グループ討議等を行う「美術館を活用した鑑賞教育の充実に資するための指導者研修」を、国立美術館の研究員の研究成果と協働により実施する。
あわせて、法人および国立アートリサーチセンターのホームページでの開催概要及び開催報告の掲載を通じ幅広い層への広報に努める。
期間：令和5年8月7日(月)、8月8日(火)
会場：国立国際美術館、大阪府立国際会議場
募集人員：80名
- ウ 国立アートリサーチセンターにおいて、高齢者や障害者等に対応できるファシリテータ育成プログラムの研究・開発に着手する。
- エ 国立アートリサーチセンターにおいて、高齢者や障害者等の参加促進について、学芸員や関係者が学びあえるオンラインフォーラムなどの場の設定を検討する。

②-1 公立美術館の学芸担当職員を対象としたキュレーター研修を実施し、その専門的知識及び技術の普及向上を図る。

研修希望者の募集に際しては、前年度と同様に研修を受け入れる国立美術館各館の展覧会概要及び受入れ可能な研修分野の情報を提示し9月に公募を開始する。

②-2 美術館活動を担う人材の育成に資するようインターンシップ等の事業を次のとおり実施する。

- ア 各館においてインターンシップ制度を実施する。
- イ 国立映画アーカイブにおいて、大学生の学芸員資格取得のための博物館実習を実施する。
- ウ 国立映画アーカイブにおいて、映画保存に関わる人材育成プログラムとして、アーカイブセミナーや映画フィルムの映写と取扱いに関するワークショップを開催
- エ 国立西洋美術館において、大学院（東京大学大学院人文社会系研究科）と連携して美術館運営に関する教育を行う。
- オ 国立新美術館において、慶應義塾大学と連携して美術館が所蔵する資料の体系およびその活用に関して講座を行う。

(3) 国内外の映画関係団体等との連携等

国立映画アーカイブでは、我が国の映画文化振興の中核的機関として、国内外の映画関係団体等と連携しながら、映画・映像作品の収集・保管・修復・復元に積極的に取り組むとともに、国際フィルム・アーカイブ連盟（FIAF）の正会員として、引き続き国際的な事業等に取り組む。また、国立アトリサーチセンターの設置に伴い、国立映画アーカイブの情報発信や人材育成に係る機能の充実強化に取り組む。具体の事業については次のとおり。

- ① 映画を芸術作品のみならず、文化遺産として、あるいは歴史資料として、網羅的に収集することを目標に、日本映画の収集を優先しながら、時代を問わず散逸や劣化、滅失の危険性が高い映画フィルム等及び上映事業や国際交流事業に必要な映画フィルム等の収集を行う。なお、収集にあたっては、自主製作映画等企業の管理下に置かれない映画の収集にも配慮することとし、受贈については、デジタル素材の受入れも継続しながら、映画のデジタル化に伴い散逸の危機に瀕しているフィルム原版の受入れも重点的に実施することとする。映画資料については、日本映画に関わるものを中心に、作品レベルでの網羅性を向上させるとともに、映画史の調査研究に資する幅広い種類の資料の収集を行う。加えて、本年度は特に次の点について留意する。

ア 歴史資料として貴重な無声期の映画作品について、デジタル復元を実施する。

イ 国立映画アーカイブが所蔵する歴史的映像等のデジタル化と配信への取り組みを継続し、サイトの充実を図る。

ウ フィルム、デジタルともにオリジナルフォーマットを重視した収集を行う。

- ② 可燃性フィルムや大型映画、小型映画などの特殊なフォーマットを含む映画フィルムの検査体制の充実を図り、劣化等に応じた柔軟な処置を施せるよう、フィルムの保管・保存・復元について、情報収集に努めるとともに、映画史的に重要なカラーシステムや、70mm フィルム等大型映画、3D 映画等の適切な保存・復元に向けての調査・作業を継続する。映画の復元については、現存する最良の元素材をもとに、オリジナルの再現を目指したワークフローにより実施する。また、国立アトリサーチセンターと協同で、映画ポスターやシナリオ、プレス資料、図書、雑誌といった映画資料についても保存修復措置を行いながらデジタル化を図る。
- ③ 国内外の同種機関や映画祭等が開催する上映会・展覧会に対し貸与を通して協力し、保存・復元の成果や、日本映画を中心に充実を図っているコレクションの活用・発信を図る。また、所蔵作品及び関連情報へのアクセスの増大と多様化への効率的な対応を念頭に、デジタル視聴用ファイルも含めたコレクションへのアクセス対応を実施する。
- ④ 上映会や展覧会及び教育普及に関わる講演会及びセミナー等を開催する。また、ユネスコ「世界視聴覚遺産の日」（10月27日）に関連した講演会等を開催する。〔再掲〕
- ⑤ 大学生の学芸員資格取得のための博物館実習を実施する。〔再掲〕
- ⑥ 映画保存に関わる人材育成プログラムとして、アーカイブセミナーや映画フィルムの映写と取扱いに関するワークショップを開催する。〔再掲〕
- ⑦ 常設展の小・中学生向け鑑賞補助教材「セルフガイド」の作成と配布、またセルフガイド利用促進ビデオのオンライン配信と活用を行う。〔再掲〕
- ⑧ 国際フィルム・アーカイブ連盟（FIAF）加盟機関及び国内映像関連団体並びに研究機関等と情報交換を図りながら、映画フィルムの保存・修復活動等に携わる機関や団体への協力を行う。
- ⑨ 「国立映画アーカイブ・大学等連携事業」の一環として、国立美術館キャンパスメンバーズ（東京国立近代美術館及び国立映画アーカイブ利用校）とともに、国立映画アーカイブの所蔵映画フィルムと施設を利用した講義等を実施する。
- ⑩ 文化庁が実施する「日本映画情報システム」事業に協力し、「国立映画アーカイブ 所蔵映画フィルム検索システム」への接続を通じた所蔵情報の公開を行う。

- ⑪ 国際フィルム・アーカイブ連盟（FIAF）会議に研究員等が出席する。
- ⑫ プログラムディレクター（PD）及びプログラムオフィサー（PO）を配置し、日本芸術文化振興会が実施する助成事業に協力し、調査や助言等を行う。
- ⑬ 歴史的・文化的価値のある我が国の貴重な映画関連資料が散逸・消失することのないよう、アーカイブの構築に向けた資料の保存及び活用を図るための望ましい仕組みの在り方について調査研究等を行う。
- ⑭ 全国各地のフィルムコミッションと連携・協力し、データベースによるロケーション情報の集約・発信等の事業に取り組む。

II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 業務運営の取組

業務運営の一層の効率化を進めるため、競争入札及び共同調達等の推進に努める。

2 組織体制の見直し

独立行政法人の組織ガバナンス強化の観点から、本部体制の強化に努めるとともに、独立行政法人の業務運営の柔軟性を生かし、より一層のサービス向上を実現するため、渉外、広報機能の強化、ICT への対応の強化、国立美術館の国際発信拠点としての機能強化等、組織・体制の強化に努める。

3 契約の点検・見直し

調達の競争性、公平性及び透明性を確保するため、「調達等合理化計画」の策定及び国立美術館契約監視委員会の開催（1 回程度）により、随意契約及び一般競争入札について点検、見直しを行う。

4 共同調達等の取組の推進

周辺の機関と連携し、次の品目について、共同調達を推進する。

- ア コピー用紙
- イ トイレットペーパー
- ウ 廃棄物処理
- エ トイレ用洗浄、脱臭器具の賃貸借
- オ 電気
- カ 電子複写機賃貸借及び保守
- キ 古紙売買

5 給与水準の適正化等

国家公務員の給与水準等とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数については適正な水準を維持するよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表する。

6 情報通信技術を活用した業務の効率化

法人内の情報システムネットワークを基盤として、バックアップ・インフラの増強に努めつつ、クラウド・サービス（外部情報サービス）を組み合わせることで、多様化する業務形態への対応と情報セキュリティの実現を両立できるように、仮想化サーバーの利用促進、外部から館内インフラへの安全なアクセスの実現といった情報通信技術を活用した業務の効率化

を進める。それとともに、職員への情報セキュリティ教育を継続的に実施し、運用面からの安全性の向上に努める。

7 予算執行の効率化

共同調達や競争入札を推進し、また、少額随契についてはオープンカウンター方式を拡充するなど、予算の効率的な執行に努める。

III 予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

1 自己収入の確保

自己収入については、「新しい生活様式」を踏まえた事業展開に伴う収益の獲得や施設貸出収入、特別観覧収入、会費収入等の増加に向けた取組を推進し、自己収入の確保に取り組む。

また、外部資金については、寄附金やクラウドファンディングを活用した資金のほか、展覧会等の企画実施に向けて、企業等からの支援（協賛金や企業の事業活動と関連した支援等）の獲得のため、制度等の充実を図る。

2 保有資産の有効利用・処分

保有する美術館施設等の資産については、保有の目的・必要性について不断の見直しを行い、保有の必要性が認められないものについては、不要財産として国庫納付等を行う。

3 予算（年度計画の予算）

別紙1のとおり。

4 収支計画

別紙2のとおり。

5 資金計画

別紙3のとおり。

IV その他主務省令で定める業務運営に関する事項

1 内部統制・ガバナンスの強化

(1) 業務運営全般について、独立行政法人全体として一貫した方針の下、戦略的、効果的かつ効率的な業務遂行を図る。また、法人全体として資源の適切な配分を図るとともに、理事長裁量経費を計上し、理事長がリーダーシップを発揮できる環境を整備する。そのほか、外部の有識者による運営委員会に対し国立美術館の管理運営に関して諮問を行い、審議結果を運営管理に反映させるなど内部統制の充実を図る。

(2) 「情報システムの整備及び管理の基本的な方針」（令和3年12月24日デジタル大臣決定）にのっとり、PMOのもとで引き続き適切な管理を行う。

(3) 国立美術館が安定してその情報コンテンツを国民に提供できるように情報管理の安全性の向上を図るとともに、コンピュータウィルスに関連する情報を職員に周知するなど、情報セキュリティ対策の向上と改善を行う。

また、「国立美術館情報資産安全対策基本方針」、「国立美術館情報セキュリティポリシー」を踏まえ、安全管理のための実施細則の策定を進める。

- (4) 内部統制・ガバナンスの強化に係る取組状況等については内部監査、監事監査等において定期的に検証し、必要に応じて見直しを行う。また、業務運営全般については、外部評価委員会及び運営委員会を開催し、指摘内容等を踏まえ、より望ましい運営方法について理事会等において検討し、組織、事務、事業等の改善に反映させる。また、「国立美術館外部評価報告書」については法人ホームページで公表する。

2 施設・設備に関する計画

- (1) 施設・設備に関する計画に沿った整備を推進する。

- ① 令和3年度補正予算措置に基づき、以下の施設・設備の整備等を進める。

ア 国立映画アーカイブ京橋本館上映ホール特定天井改修他工事

イ 国立映画アーカイブ相模原分館上映ホール天井改修他工事

ウ 国立新美術館空調設備蒸気配管更新等工事（第1期）

- ② 令和4年度補正予算措置に基づき、以下の施設・設備の整備等を進める。

ア 国立新美術館空調設備蒸気配管更新等工事（第2期）

- (2) 国立新美術館の用地（未購入の土地）について、施設・設備に関する計画に基づき、予算措置に応じて購入を進める。

3 人事に関する計画

- (1) 方針

- ① 職員の意識向上を図るため、次の職員研修を実施する。

ア 新規採用者研修

イ ハラスメント防止に関する研修

ウ メンタルヘルスケアに関連する研修

エ 情報セキュリティ研修

オ コンプライアンス研修

- ② 外部の研修に職員を積極的に派遣し、その資質の向上を図る。特に研究職職員への研修機会の増大に努める。

- ③ 専門人材を含め多様な人材の確保と育成に努める。

- (2) 人員に係る指標

給与水準の適正化等を図りつつ、業務内容を踏まえた適切な人員配置等を推進する。また、任期付研究員及び特定有期雇用職員制度のより一層の活用を図る。

4 積立金の使途

前中期目標期間の積立金のうち文部科学大臣の承認を受けた金額について、当期に繰り越された経過勘定損益影響額等に係る会計処理に充当する。

また、今中期目標期間の前期までに生じた剰余金のうち文部科学大臣の承認を受けた金額

について、中期計画に定める使途に係る経費等に充当する。

5 その他

- (1) 「独立行政法人改革等に関する基本的な方針」（平成 25 年 12 月 24 日閣議決定）に基づき、業務運営に関して様々な工夫・努力を行う。
- (2) 国立アトリサーチセンターの設置に伴い、日本美術及び国内美術館の振興と我が国の美術における国際拠点化を図るとともに、SDGs（持続可能な開発目標）の実現や文化観光振興等に寄与する。また、昨今のアート分野・美術館界を取り巻く環境変化の速さに鑑み、適時適切に社会的要請に応えられるよう、国立美術館の業務運営や活動全般について、望ましい対応の方向性を検討する。なお、「文化と経済の好循環を実現する文化芸術活動の「創造的循環」」を踏まえ、メディア芸術（映画、漫画、アニメーション及びコンピュータその他の電子機器等を利用した芸術）、デザイン、建築、ファッション等の現代日本を表する文化芸術領域全般の振興に向けた取り組みを進める。

別紙1
予算(年度計画の予算)

令和5年度予算

(単位:百万円)

区 分	美術振興事業	ナショナル コレクション 形成・継承事業	ナショナル センター事業	共 通	合 計
収 入					
運営費交付金	2,882	2,586	964	1,307	7,739
展示事業等収入	1,470	3	25	6	1,504
寄附金収入	0	0	0	650	650
施設整備費補助金	0	0	0	400	400
計	4,352	2,589	989	2,363	10,293
支 出					
運営事業費	4,352	2,589	989	1,313	9,243
人件費	487	105	145	509	1,246
一般管理費	0	0	0	804	804
事業部門経費	3,865	2,484	844	0	7,193
うち美術振興事業費	3,865	0	0	0	3,865
うちナショナルコレクション 形成・継承事業費	0	2,484	0	0	2,484
うちナショナルセンター事業費	0	0	844	0	844
寄附金事業費	0	0	0	650	650
施設整備費	0	0	0	400	400
計	4,352	2,589	989	2,363	10,293

別紙2
収支計画

令和5年度収支計画

(単位:百万円)

区 分	美術振興事業	ナショナル コレクション 形成・継承事業	ナショナル センター事業	共 通	合 計
費用の部					
経常経費	4,442	802	840	1,963	8,047
人件費	446	95	132	485	1,158
賞与引当金見返	42	11	29	26	108
退職給付引当金見返	27	6	13	11	57
一般管理費	0	0	0	781	781
事業部門経費	3,846	676	647	0	5,169
うち美術振興事業費	3,846	0	0	0	3,846
うちナショナルコレクション 形成・継承事業費	0	676	0	0	676
うちナショナルセンター事業費	0	0	647	0	647
寄附金事業費	0	0	0	650	650
減価償却費	81	14	19	10	124
収益の部					
経常収益	4,442	802	840	1,963	8,047
運営費交付金収益	2,822	768	754	1,260	5,604
展示事業等の収入	1,470	3	25	6	1,504
寄附金収益	0	0	0	650	650
資産見返運営費交付金戻入	79	14	19	10	122
資産見返寄附金戻入	1	0	0	0	1
資産見返物品受贈額戻入	1	0	0	0	1
賞与引当金見返に係る収益	42	11	29	26	108
退職給付引当金見返に係る収益	27	6	13	11	57

別紙3
資金計画

令和5年度資金計画

(単位:百万円)

区 分	美術振興事業	ナショナル コレクション 形成・継承事業	ナショナル センター事業	共 通	合 計
資金支出	4,352	2,589	989	2,363	10,293
業務活動による支出	4,333	2,588	962	1,940	9,823
投資活動による支出	19	1	27	423	470
資金収入	4,352	2,589	989	2,363	10,293
業務活動による収入	4,352	2,589	989	1,963	9,893
運営費交付金による収入	2,882	2,586	964	1,307	7,739
展示事業等による収入	1,470	3	25	6	1,504
寄附金収入	0	0	0	650	650
投資活動による収入	0	0	0	400	400
施設整備費補助金による収入	0	0	0	400	400

別表1 令和5年度 所蔵作品展・企画展 計画

※企画展は以下の企画観点到留意して実施する。

- イ 国際的視野に立ち、アジア諸地域を含め海外の主要美術館と連携し、確固たる評価を得ている世界の美術や海外の美術の新たな動向を紹介するとともに、我が国の作家や芸術的動向を海外に紹介し、国際的な美術動向に位置付ける展覧会等に積極的に取り組む。
- ロ 展覧会テーマの設定や他の芸術文化との連携による展示方法等について方向性を提示することに取り組む。
- ハ メディアアート、アニメ、マンガ、デザイン、建築など我が国が世界から注目される新しい領域の芸術表現を積極的に取り上げ、最先端の現代美術への関心を促す。
- ニ 国内の美術館と連携し、我が国に所在するコレクションの積極的活用を図る。
- ホ 過去の埋もれていた作家・作品・動向の発見や再評価に取り組み、国際的な美術動向に位置付ける展覧会に積極的に取り組む。

(東京国立近代美術館本館)

	展覧会名	共催	会期等	日数 (年度内)	企画観 点 (イ～ホ)
所蔵 作品展	MOMATコレクション (「美術館の春まつり」他特集及びコレクションによる小企画を含む)	—	5回展示替え	261	
企画展	①東京国立近代美術館70周年記念展 重要文化財の秘密 ※1	毎日新聞社、日本経済新聞社	3/17 (金) ～ 5/14 (日)	40	イ、ロ、ニ
	②ガウディとサグラダ・ファミリア展	NHK、NHKプロモーション、東京新聞	6/13 (火) ～ 9/10 (日)	78	イ、ロ、ハ
	③生誕120年棟方志功展 メイキング・オブ・ムナカタ	NHK、NHKプロモーション、東京新聞	10/6 (金) ～ 12/3 (日)	51	イ、ハ、ニ
	④中平卓馬展 (仮) ※2	—	2/6 (火) ～ 4/7 (日)	49	イ、ロ、ホ
	企画展 計			218	

※1 通算の開催日数は54日間

※2 通算の開催日数は55日間

(国立工芸館)

	展覧会名	共催	会期等	日数 (年度内)	企画観 点 (イ～ホ)
所蔵作 品展	所蔵作品展	—	7/7 (金) ～ 9/24 (日)	69	
企画展	①ポケモン×工芸展—美とわざの大発見— ※1	NHKエンタープライズ中部 読売新聞北陸支社	3/21 (火) ～ 6/11 (日)	62	ロ
	②三の丸尚蔵館名品展 (仮)	石川県立美術館、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、宮内庁、文化庁	10/14 (土) ～ 11/26 (日)	43	ニ、ホ
	③印刷/版画/グラフィックデザインの断層 1957-1979	京都国立近代美術館	12/19 (火) ～ 3/3 (日)	62	ハ、ニ
	④卒寿記念 人間国宝 鈴木蔵展 (仮) ※2	NHKエンタープライズ中部	3/19 (火) ～ 6/2 (日)	12	ニ、ホ
	企画展 計			179	

※1 通算の開催日数は72日間

※2 通算の開催日数は66日間

(京都国立近代美術館)

	展覧会名	共催	会期等	日数 (年度内)	企画観点 (イ～ホ)
所蔵 作品展	コレクション展	—	4回展示替え	266	
企画展	①リュウユーフィンランドのテキスタイル： トゥオマス・ソパネン・コレクション ※1	—	1/28（土） ～ 4/16（日）	14	ロ
	②開館60周年記念 甲斐莊楠音の全貌—絵画、 演劇、映画を越境する個性 ※2	日本経済新聞社、京都新聞	2/11（土） ～ 4/9（日）	8	ロ、ハ、 ニ、ホ
	③開館60周年記念 Re:スタートライン 1963— 1970/2023 現代美術の動向展シリーズにみる美 術館とアーティストの共感関係	京都新聞	4/28（金） ～ 7/2（日）	57	ホ
	④開館60周年記念 走泥社再考 前衛陶芸の生 まれた時代	京都新聞、関西テレビ	7/19（水） ～ 9/24（日）	59	ニ、ホ
	⑤開館60周年記念 京都画壇の青春—栖鳳、松 園につづく新世代たち	NHK京都放送局、NHKエンタープ ライズ近畿、読売新聞社	10/13（金） ～ 12/10（日）	51	ホ
	⑥開館60周年記念 小林正和とその時代：ファ イバー・アート、その向こうへ	—	1/6（土） ～ 3/10（日）	56	ニ、ホ
	企画展計			231	

※1 通算の開催日数は68日間、コレクション・ギャラリーで開催する展覧会のため、企画展合計には含めない。

※2 通算の開催日数は50日間

(国立映画アーカイブ)

	上映会・展覧会名	共催	会期等	日数 (年度内)	企画観点 (イ～ホ)
上映会	①没後10年 映画監督 大島渚	—	4/11 (火) ～ 5/28 (日)	42	ロ
	②EUフィルムデーズ2023	駐日欧州連合代表部及びEU加盟国大使館・文化機関	6/2 (金) ～ 6/30 (金)	25	イ
	③逝ける映画人を偲んで2021-2022 Part 1 (仮称)・逝ける映画人を偲んで2021-2022 Part 2 (仮称)	—	7/1 (土) ～ 9/3 (日)	56	ホ
			10/10 (火) ～ 10/12 (木)	3	
			10/15 (日) ～ 10/22 (日)	7	
	④アニメーション作家 山村浩二 (仮称)	—	8/11 (金) ～ 8/13 (日)	3	ハ
			8/18 (金) ～ 8/20 (日)	3	
			8/25 (金) ～ 8/27 (日)	3	
	⑤第45回びあフィルムフェスティバル	一般社団法人PFF、公益財団法人川喜多記念映画文化財団、公益財団法人ユニジャパン	9/9 (土) ～ 9/23 (土)	13	ロ
	⑥サイレントシネマ・デイズ2023	—	10/3 (火) ～ 10/8 (日)	6	ロ
	⑦TOKYOクラシックス (仮称)	東京国際映画祭	10/24 (火) ～ 10/29 (日)	6	イ
	⑧月丘夢路 井上梅次 生誕100年祭 (仮称)	—	10/31 (火) ～ 11/26 (日)	25	ロ
	⑨返還映画コレクション Part1 (仮称)	—	11/28 (火) ～ 12/24 (日)	24	ホ
	⑩蘇ったフィルムたち チネマ・リトロバート映画祭 (仮称)	チネテカ・ディ・ボローニャ	1/5 (金) ～ 2/4 (日)	27	イ
展覧会	⑪NFAJコレクション 2024冬 (仮称)	—	1/19 (金) ～ 1/21 (日)	3	ロ
			1/26 (金) ～ 1/28 (日)	3	
			2/2 (金) ～ 2/4 (日)	3	
	⑫日本の女性映画人 Part 2 (仮称)	—	2/6 (火) ～ 3/24 (日)	42	ロ
	上映会 計			294	
展覧会	①没後10年 映画監督 大島渚	—	4/11 (火) ～ 8/6 (日)	99	ロ
	②月丘夢路 井上梅次 生誕100年祭 (仮称)	—	8/22 (火) ～ 11/26 (日)	74	ロ
	③和田誠 映画の仕事 (仮称)	—	12/12 (火) ～ 3/24 (日)	81	ハ、ニ
	展覧会 計			254	

(国立西洋美術館)

	展覧会名	共催	会期等	日数 (年度内)	企画観点 (イ～ホ)
所蔵 作品展	西洋美術館コレクション	—	3回展示替え	278	
企画展	①憧憬の地 プルターニュ —モネ、ゴッ ン、黒田清輝らが見た異郷 ※1	TBS、読売新聞社	3/18 (土) ～ 6/11 (日)	63	ニ、ホ
	②スペインのイメージ：版画を通じて写し伝わ るすがた	朝日新聞社	7/4 (火) ～ 9/3 (日)	55	ニ
	③パリ ボンビドゥーセンター キュビズム展— 美の革命 ピカソ、ブラックからドローネー、 シャガールへ	ボンビドゥーセンター、日本経済 新聞社	10/3 (火) ～ 1/28 (日)	98	イ
	④ここは未来のアーティストたちが眠る部屋と なりえてきたか？ ——国立西洋美術館65年目の自問 現代美術家 たちへの問いかけ (仮称) ※2	—	3/12 (火) ～ 5/12 (日)	19	ロ
	企画展 計			235	

※1 通算の開催日数は76日間

※2 通算の開催日数は56日間

(国立国際美術館)

	展覧会名	共催	会期等	日数 (年度内)	企画観点 (イ～ホ)
所蔵 作品展	コレクション展	—	3回展示替え	161	
企画展	①ピカソとその時代 ベルリン国立ベルクグ リューン美術館展 ※1	ベルリン国立ベルクグリューン美 術館、産経新聞社、MBSテレビ、 共同通信社	2/4 (土) ～ 5/21 (日)	45	イ
	②ホーム・スイート・ホーム	—	6/24 (土) ～ 9/10 (日)	68	イ、ロ、ハ
	③古代メキシコ —マヤ、アステカ、テオティ ワカン ※2	NHK、NHKエンタープライズ近畿、 朝日新聞社	2/6 (火) ～ 5/6 (月)	48	イ
	企画展 計			161	

※1 通算の開催日数は93日間

※2 通算の開催日数は80日間

(国立新美術館)

	展覧会名	共催	会期等	日数 (年度内)	企画観点 (イ～ホ)
企画展	①ルーヴル美術館展 愛を描く ※1	ルーヴル美術館、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売新聞社、BS日テレ、ニッポン放送	3/1 (水) ～ 6/12 (月)	64	イ、ロ
	②蔡國強：宇宙遊—〈原初火球〉から始まる	SAINT LAURENT	6/29 (木) ～ 8/21 (月)	47	イ、ロ、ニ
	③テート美術館展 光 — ターナー、印象派から現代へ	テート美術館、日本経済新聞社、テレビ東京、BSテレビ東京	7/12 (水) ～ 10/2 (月)	72	イ、ロ
	④イヴ・サンローラン展	産経新聞、TBS、ソニー・ミュージック・エンタテインメント	9/20 (水) ～ 12/11 (月)	72	イ
	⑤大巻伸嗣展 (仮称)	—	11/1 (水) ～ 12/25 (月)	48	イ、ロ、ハ
	⑥マティス 自由なフォルム ※2	ニース市マティス美術館、読売新聞社	2/14 (水) ～ 5/27 (月)	41	イ
	⑦遠距離現在 ※3	熊本市現代美術館	3/6 (水) ～ 6/3 (月)	23	イ、ロ、ニ
	企画展 計			367	

※1 通算の開催日数は91日間

※2 通算の開催日数は91日間

※3 通算の開催日数は79日間

別表2 各館等の令和5年度調査研究

※調査研究は以下の目的に沿って実施する。

- ア 美術作品の収集・展示・保管に関する調査研究
- イ 教育普及活動のための調査研究
- ウ 情報の収集・提供のための調査研究
- エ 映画のデジタル保存・活用等に関する調査研究
- オ その他の美術館活動のための調査研究

(国立アトリサーチセンター)

調査研究内容	連携研究機関等	調査研究目的
絵画作品の画面洗浄に関する新しいシステムの研究	クリス・スタヴラウディス（アメリカ）、東京文化財研究所	ア
赤外線調査分析に関する研究	東京文化財研究所	ア
国立美術館所蔵作品の科学調査	東京文化財研究所、東京藝術大学	ア
美術作品の保存に関する研究	国立美術館各館	ア
国立美術館の所蔵品を活用した展覧会	国立美術館各館	ア
国内美術館収蔵品の調査と情報収集（「全国美術館収蔵品サーチ（SHUZO）」を通じて公開）	全国的美術館	ウ
日本のアーティストに関する調査と情報収集（「アーティスト事典」（仮称）を通じて公開）	法人各館および外部研究協力者等	ウ
日本の現代美術展に関する調査と情報収集（「日本現代美術展調査」を通じて公開）	中島理壽氏、光山清子氏、他研究協力者	ウ
日本の画廊に関する調査と情報収集（「日本の画廊調査1945年以降」を通じて公開）	外部の研究協力者	ウ
日本のアート分野レファレンス・ツールの調査と情報収集（「リサーチガイド」（仮称）を通じて公開）	—	ウ
国立美術館所蔵作品に関する画像・歴史的情報等の公開データの拡充（独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システムを通じて公開）	—	ウ
独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システムと、国立国会図書館が運営するジャパンサーチ、文化庁文化遺産オンラインとの連携の継続維持	—	ウ
アート分野のアーカイブズ資料の整理・公開方法についての基礎調査	—	ウ
超高齢化社会に向けた、福祉・医療分野との共同研究	東京藝術大学、他	イ
高齢者の美術館利用や作品鑑賞の効果計測	慶応義塾大学、他	イ
美術館のアクセシビリティについての調査	—	イ
美術作品画像を活用したアウトリーチプログラムの開発	—	イ

（東京国立近代美術館本館）

調査研究内容	連携研究機関等	調査研究目的
日本近代美術史の形成と重要文化財	—	ア
ガウディの建築思想とサグラダ・ファミリア	サグラダファミリア建設委員会	ア
棟方志功とメディア	青森県立美術館、富山県美術館	ア
中平卓馬に関する総合的な研究	—	ア
東京、大阪、パリにおける近代美術の比較研究	大坂中之島美術館、パリ市立近代美術館	ア
はにわ・土偶と近代美術に関する研究	—	ア
速水御舟資料の調査研究	川越市立美術館、小林古径記念美術館他	ア
「MOMATコレクション」	—	ア
「MOMATコレクション 特集：美術館の春まつり」	—	ア
コレクションの画像を用いた来館者用体験機器開発	株式会社DNPアートコミュニケーションズ	ア、イ
デジタルカメラによる作品撮影及び画像アーカイブ構築のための撮影機材の比較	西川茂（写真家）	ア
近代日本絵画における多層構造の活用に関する研究	小林俊介（山形大学）	ア
美術館におけるデジタル・アーカイブの構築	—	ウ
児童生徒を対象とする所蔵作品の鑑賞教育の推進	—	イ
オンライン会議システム等を利用した鑑賞プログラムの推進	—	イ
企画展示やコレクションを活用してのワークショップ、鑑賞ガイド等の推進	—	イ
ビジネスパーソンなど特定の層に向けての鑑賞プログラムの推進	—	イ
外国人に向けての英語鑑賞プログラムの推進（オンラインを含む）	—	イ
1990年代から2000年代のロンドンにおける具象絵画に関する研究	科学研究費補助金、5年目	ア
写真・映像の「影響」から見た日本の前衛芸術——昭和戦前期を中心に	科学研究費補助金、5年目	オ
「ナショナル・フィルモグラフィ構築に向けた調査研究：塚田嘉信コレクションを活用して」	科学研究費補助金、1年目	ア
日本における70ミリ劇映画文化の受容とそのイメージの復元	科学研究費補助金、5年目	ア
カラー映画フィルムのスペクトル分析に基づく忠実な色再現と褪色補正に関する基盤研究	科学研究費補助金、3年目	ア、エ

(国立工芸館)

調査研究内容	連携研究機関等	調査研究目的
日本の近・現代陶芸史と伝統工芸	パナソニック汐留美術館、山口県立萩美術館・浦上記念館、佐賀県立九州陶磁文化館、MOA美術館、愛知県陶磁美術館、茨城県陶芸美術館、兵庫陶芸美術館、日本工芸会	ア
国立工芸館と周辺美術館・博物館との連携について	石川県立美術館、金沢21世紀美術館、金沢市立中村記念美術館ほか	ア、イ、ウ、オ
児童を対象とする工芸作品の鑑賞教育の推進	—	イ
工芸制作における言語活動の推進について	石川県図工・美術教育研究会	イ
ポップカルチャーを題材とする伝統的工芸制作について	株式会社ポケモン	ア、イ
工芸作品の鑑賞における高精細デジタルデータの作成について	シャープ株式会社、株式会社DNPアートコミュニケーションズ	イ
現代工芸における心象表現について	—	ア
石川の若手工芸家に関する調査研究	—	ア、オ
美術館の宣伝・広報活動	石川県立美術館、石川県立歴史博物館、金沢21世紀美術館、金沢市立中村記念美術館ほか	イ、オ
明治および大正期の工芸研究	三の丸尚蔵館、石川県立美術館	ア、イ、ウ
所蔵作品および作家資料の活用について	富山大学	ア、イ、ウ
地場工芸における倫理的側面について	—	ア、ウ、オ
1960年以降における海外のデザイン動向の受容について	—	ア、イ、ウ
芹沢銈介と戦後のデザイン、日本美術について	—	ア、オ
工芸作家、研究者等への聞き取り調査	—	ア、オ
版画とグラフィックデザインの交錯と境界：1950-70年代の日本を中心に	DNP助成金、2年目	ア、オ
1920-50年代のデザイン／工芸の実践に関する基礎的研究	科学研究費補助金、3年目	ア、オ
東京国際版画ビエンナーレ展とその影響について	—	ア、オ
手摺多色木版の普及と日本のデザインの相関関係について	—	ア、オ
所蔵作品のデータベース構築とその活用について	—	ア、ウ、オ
工芸・デザイン作品における「水」の表現について	—	ア、オ
鈴木藏と桃山の陶芸	江別市セラミックアートセンター、富山県水墨美術館、岐阜県現代陶芸美術館	ア、オ
工芸館におけるデジタル・アーカイブの構築	—	ウ

(京都国立近代美術館)

調査研究内容	連携研究機関等	調査研究目的
所蔵作品（工芸）に関する研究	—	ア
フィンランドにおけるリュイユ織に関する研究	—	ア
甲斐荘楠音の絵画・映画・演劇：越境的個性に関する研究	東京ステーションギャラリー、国際日本文化研究センター、神戸大学、東映太秦映画村	ア、ウ
京都国立近代美術館と「現代美術の動向展」	—	ア、ウ
走泥社と前衛陶芸の展開	岐阜県美術館、岡山県立美術館、菊池寛実記念智美術館	ア、ウ
明治末から昭和初めにかけての京都の日本画について	—	ア
小林正和と1970年代以降のファイバーアートの展開について	岡山県立美術館、ギャラリー・ギャラリー	ア、ウ
倉俣史朗のデザインとその思想に関する研究	富山県立美術館、世田谷美術館、クラマタデザイン事務所	ア
富岡鉄斎に関する研究	鉄斎美術館、碧南市藤井達吉現代美術館、富山県水墨美術館	ア
ファッションとアートに関する研究	京都服飾文化研究財団、熊本市現代美術館、東京オペラシティアートギャラリー	ア
黒田辰秋に関する研究	豊田市美術館	ア
上方文化サロン：人的ネットワークから解き明かす文化創造空間 1780-1880	大英博物館、立命館大学アート・リサーチセンター	オ
1990年代以降の日本映画監督	国立映画アーカイブ	ア
児童生徒を対象とする鑑賞教育	京都市図画工作教育研究会、京都市立中学校教育研究会美術部会	イ
障害の有無に関わらず享受できるユニバーサルな美術鑑賞プログラム	国立民族学博物館、京都市立芸術大学、京都府立盲学校、京都大学総合博物館、大阪教育大学	イ、オ
美術館の教育普及活動	—	イ
20世紀後半の現代陶芸の動向についての基礎的研究	科学研究費補助金、3年目	オ
中近世ドイツ語圏の金工の社会史的研究—W. ヤムニッツァーを中心に	科学研究費補助金、4年目	オ

(国立映画アーカイブ)

調査研究内容	連携研究機関等	調査研究目的
イタリア映画の歴史	チネテカ・ディ・ボローニャ	ア
アニメーション作家山村浩二の映画	—	ア
日本映画における女性の役割の歴史	—	ア
アメリカから返還された映画	—	ア
ヨーロッパ諸国の現代映画	駐日欧州連合代表部及びEU加盟国大使館・文化機関	ア
外国映画を中心とする無声映画	—	ア
日本映画の古典	東京国際映画祭	ア
日本の自主映画	一般社団法人PFF、公益財団法人川喜多記念映画文化財団、公益財団法人ユニジャパン	ア
映画監督大島渚の映画	—	ア
俳優月丘夢路・監督井上梅次の映画	—	ア
和田誠の映画関連の業績	—	ア
映画資料を整理するとともに、その画像をデジタル化し、活用することを目的とする事業	—	ア、ウ、エ
映画製作専門家のオーラルヒストリー	—	イ
こどもを対象にした映画鑑賞プログラム	—	イ
東京現像所の技術と歴史	—	イ
映写技術・復元、フィルム映写をテーマにした教育プログラム	—	イ
社会人を対象にした映画鑑賞プログラム	—	イ

(国立西洋美術館)

調査研究内容	連携研究機関等	調査研究目的
ブルターニュ地方と美術	—	ア
スペインの版画、および版画に見るスペインのイメージ	長崎県立美術館	ア
キュビズム	ポンピドゥーセンター	ア
日本の現代美術	—	ア
中世から20 世紀前半の西洋美術	—	ア
所蔵版画・素描・写本作品	—	ア
指輪作品	—	ア
美術館教育（児童を対象とした鑑賞教育、ファミリープログラム、障がい者を対象としたプログラム、ワークショップ、鑑賞ガイドの作成、生涯学習としてのボランティア制度運営など）	—	イ
所蔵作品に関する歴史情報等の公開データの拡充	—	ウ
美術資料や館史料の情報組織、公開方法	—	ウ
国立西洋美術館所蔵作品の材料・技法についての科学的調査	東京電機大学、筑波大学	オ
国立西洋美術館の所蔵作品（ロダン、ブールデルなど近代の彫刻作品を中心とする）における3Dデータを用いた活用方法	奈良県立大学地域創造研究センター	オ
アクリルケースを用いた展示における反射グレア低減手法の検討、輝度対比を考慮した美術館照明手法の検討	東京理科大学	オ
国立西洋美術館所蔵作品の下描き調査（InGaAs センサを搭載したカメラを使った赤外線反射画像の撮影と、可視化された下描きについての考察）	株式会社ニコン	オ
松方コレクション	—	ア
美術作品や歴史資料中の膠着材の同定法の構築—方法の改善・発展と実践	科学研究費補助金、5年目	ア
松方コレクション来歴研究とデジタル・カタログ・レゾネ試作	科学研究費補助金、4年目	ア、ウ
「装飾的」なる概念を介した19世紀末美術と演劇の連動—ナビ派と芸術座を中心に	科学研究費補助金、2年目	ア

(国立国際美術館)

調査研究内容	連携研究機関等	調査研究目的
所蔵作品の研究	—	ア
現代美術の動向調査	—	ア
20世紀前半の西洋美術について	ベルクグリューン美術館（ベルリン）、国立西洋美術館	ア
メル・ボックナーについて	—	ア
現代美術における「ホーム」の表象	—	ア、オ
古代メキシコ文明について	東京国立博物館、九州国立博物館、メキシコ国立人類学博物館他	ア
タイムベースド・メディアについて	—	ア、オ
アジアの女性作家について	韓国国立現代美術館	ア、オ
アジアにおける美術館活動について	韓国国立現代美術館、M+	ア、イ、ウ、オ
2000年代以後の所蔵作品についての重点的調査	—	ア
1960年代から70年代の関西を中心とした前衛美術、パフォーマンスやエフェメラを中心とした研究	—	オ
「もの派」以降の日本現代美術アーカイヴ構築と活用：安齊重男資料を対象として	多摩美術大学	ア
田中信太郎の遺品資料に基づく作家研究基礎調査	東京文化財研究所	ア
プレイについて	—	ア
展示室、収蔵庫環境についての調査	—	ア
現代美術における映像表現	—	ア、エ
児童生徒を対象とする鑑賞教育の推進	大阪府教育センター	イ
美術館教育	—	イ
所蔵作品に関する歴史的情報等の公開データの拡充、整備	—	ウ
鉛を用いた美術作品の構造と劣化に関する調査研究	DIC川村記念美術館、福岡市美術館	ア
合成樹脂を用いた美術作品の劣化状態と保存、展示方法についての調査研究	—	ア
近現代アートの保存・継承に向けた収蔵品情報管理・共有システムの構築	昭和女子大学、東京藝術大学	ア

(国立新美術館)

調査研究内容	連携研究機関等	調査研究目的
日本の現代美術の動向	—	ア
海外の現代美術の動向	—	ア
ルネサンスから19世紀前半までの西洋美術における「愛」の表現について	ルーヴル美術館（パリ）	ア

近代以降の美術における光の表象について	テート	ア
パンデミック下で顕在化した現代社会の諸傾向と国内外の美術動向について	熊本市現代美術館	ア
イヴ・サンローランについて	イヴ・サンローラン美術館（パリ）	ア
アンリ・マティスについて	マティス美術館（ニース）	ア
蔡國強について	—	ア
田名網敬一と1960年代以降の現代美術について	—	ア
パブリックスペースの展示について	—	ア
美術館教育教育	—	イ
日本の近・現代美術資料	—	ウ
美術資料のアーカイブズ構築における編成記述方法	—	ウ
展覧会情報の収集・提供システム「アートコモンズ」の構築	—	ウ
展覧会情報の国立国会図書館「ジャパンサーチ」との連携	国立国会図書館	ウ